

OT04 Q001

基礎作業療法学 > 作業療法の歴史・理念 | 標準

日本の作業療法士養成教育について正しいのはどれか。この論点で、選択肢「1945年に作業療法士法が制定されて開始された」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 日本の作業療法士養成教育は1963年に同学院で開始された。
- イ. 理学療法士及び作業療法士法の制定は1965年である。
- ウ. 国家資格制度は1965年の法律制定により成立した。
- エ. 1960年代から養成教育が始まっている。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「1963年に国立療養所東京病院附属リハビリテーション学院で開始された」に対応する説明で、判断対象「1945年に作業療法士法が制定されて開始された」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「1945年に作業療法士法が制定されて開始された」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「1985年に初めて国家資格となった」に対応する説明で、判断対象「1945年に作業療法士法が制定されて開始された」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「2000年以降に初めて養成校が設置された」に対応する説明で、判断対象「1945年に作業療法士法が制定されて開始された」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。理学療法士及び作業療法士法の制定は1965年である。判断対象は「1945年に作業療法士法が制定されて開始された」。日本の作業療法は1960年代に養成教育と法制度が整備され、専門職として発展してきた。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q002

基礎作業療法学 > 作業療法の歴史・理念 | 基礎

日本作業療法士協会の作業療法の定義に最も合致するのはどれか。この論点で、選択肢「人々の健康と幸福を促進するため、作業に焦点を当てて治療・指導・援助を行う」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 予防や健康増進を含み、対象は障害が固定した人に限られない。
- イ. 医療、保健、福祉、教育、職業など幅広い領域で行われる。
- ウ. 作業療法は筋力だけを対象としない。
- エ. 現行定義は健康と幸福の促進と、作業に焦点を当てた治療・指導・援助を示している。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「障害が固定した人だけを対象とする」に対応する説明で、判断対象「人々の健康と幸福を促進するため、作業に焦点を当てて治療・指導・援助を行う」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「医療機関内だけで実施する」に対応する説明で、判断対象「人々の健康と幸福を促進するため、作業に焦点を当てて治療・指導・援助を行う」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「筋力増強だけを目的とする」に対応する説明で、判断対象「人々の健康と幸福を促進するため、作業に焦点を当てて治療・指導・援助を行う」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「人々の健康と幸福を促進するため、作業に焦点を当てて治療・指導・援助を行う」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。現行定義は健康と幸福の促進と、作業に焦点を当てた治療・指導・援助を示している。判断対象は「人々の健康と幸福を促進するため、作業に焦点を当てて治療・指導・援助を行う」。作業療法の専門性は、心身機能だけでなく、その人にとって意味のある生活行為に焦点を当てる点にある。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q003

基礎作業療法学 > 作業療法の歴史・理念 | 基礎

日本作業療法士協会の定義でいう「作業」として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「治療室で行う手工芸だけ」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 家事、学業、遊び、休養なども作業に含まれる。
- イ. 作業とは対象となる人々にとって目的や価値をもつ生活行為を指す。
- ウ. 作業は身体運動だけでなく認知・心理・社会的側面を含む。
- エ. 手工芸は作業の一部になり得るが、それだけに限定されない。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「仕事として賃金が発生する活動だけ」に対応する説明で、判断対象「治療室で行う手工芸だけ」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「対象者にとって目的や価値をもつ生活行為」に対応する説明で、判断対象「治療室で行う手工芸だけ」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「筋収縮を伴う運動だけ」に対応する説明で、判断対象「治療室で行う手工芸だけ」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「治療室で行う手工芸だけ」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。手工芸は作業の一部になり得るが、それだけに限定されない。判断対象は「治療室で行う手工芸だけ」。同じ活動でも、その人にとっての意味・必要性・価値によって作業としての位置づけが異なる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q004

基礎作業療法学 > 作業療法の歴史・理念 | 標準

料理を再び一人で行えることを本人の目標とし、実際の調理動作を反復して遂行能力を高める介入は、主にどの考え方に当たるか。この論点で、選択肢「目的としての作業の利用」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 調理という作業を直接用いている。
- イ. できるようになりたい作業そのものを練習するため、目的としての作業の利用に当たる。
- ウ. 診断名の変更とは無関係である。
- エ. 評価ではなく作業遂行への介入である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「作業を一切用いない介入」に対応する説明で、判断対象「目的としての作業の利用」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「目的としての作業の利用」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「診断名だけを変更する介入」に対応する説明で、判断対象「目的としての作業の利用」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「筋力だけを測定する評価」に対応する説明で、判断対象「目的としての作業の利用」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。できるようになりたい作業そのものを練習するため、目的としての作業の利用に当たる。判断対象は「目的としての作業の利用」。作業療法では、機能改善の手段として作業を用いる場合と、作業そのものの遂行を目標として練習する場合の双方がある。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q005

基礎作業療法学 > 作業・活動・作業遂行 | 基礎

手段の日常生活活動 IADL に該当するのはどれか。この論点で、選択肢「上衣を着る」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 食事は基本的ADLである。
- イ. 買い物や交通機関利用は地域生活を営むためのIADLに含まれる。
- ウ. 更衣は基本的ADLである。
- エ. 排泄は基本的ADLである。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「食事を口へ運ぶ」に対応する説明で、判断対象「上衣を着る」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「公共交通機関を利用して買い物に行く」に対応する説明で、判断対象「上衣を着る」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「上衣を着る」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「排泄後に清拭する」に対応する説明で、判断対象「上衣を着る」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。更衣は基本的ADLである。判断対象は「上衣を着る」。作業分類ではADL、IADL、生産的活動、余暇・遊びなどを区別して生活全体を捉える。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q006

基礎作業療法学 > 作業・活動・作業遂行 | 基礎

作業療法における生産的活動の例として最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「職業や学業、家事など社会的役割に関わる活動」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 医学的測定である。
- イ. 生産的活動には仕事、学業、家事など役割や成果に関わる活動が含まれる。
- ウ. 睡眠は休養に関わる作業である。
- エ. 検査手技であり生活上の生産的活動とは異なる。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「血圧測定だけ」に対応する説明で、判断対象「職業や学業、家事など社会的役割に関わる活動」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「職業や学業、家事など社会的役割に関わる活動」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「睡眠だけ」に対応する説明で、判断対象「職業や学業、家事など社会的役割に関わる活動」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「関節可動域測定だけ」に対応する説明で、判断対象「職業や学業、家事など社会的役割に関わる活動」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。生産的活動には仕事、学業、家事など役割や成果に関わる活動が含まれる。判断対象は「職業や学業、家事など社会的役割に関わる活動」。作業療法では本人の役割や生活段階に応じて、どの作業領域が重要かを確認する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q007

基礎作業療法学 > 作業・活動・作業遂行 | 標準

作業遂行に影響する要因として、国家試験出題基準に含まれていないものはどれか。この論点で、選択肢「感覚・知覚・認知」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 意志・価値・興味も作業遂行要因である。
- イ. 身体機能は作業遂行要因として示されている。
- ウ. 診療報酬点数は制度上の情報であり、本人の作業遂行要因そのものではない。
- エ. 感覚・知覚・認知も作業遂行へ影響する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「意志・価値・興味」に対応する説明で、判断対象「感覚・知覚・認知」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「身体機能」に対応する説明で、判断対象「感覚・知覚・認知」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「診療報酬点数だけ」に対応する説明で、判断対象「感覚・知覚・認知」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「感覚・知覚・認知」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。感覚・知覚・認知も作業遂行へ影響する。判断対象は「感覚・知覚・認知」。作業遂行は身体・認知・心理だけでなく、意志、価値、興味、役割、習慣などの影響を受ける。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q008

基礎作業療法学 > 作業・活動・作業遂行 | 標準

退職後に生活リズムが崩れ、外出機会も減った人を評価する際、作業遂行要因として特に確認すべきなのはどれか。この論点で、選択肢「役割と習慣の変化」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 退職は役割や日課・習慣を大きく変え、作業参加へ影響する。
- イ. 利き目だけが中心要因ではない。
- ウ. 血液型だけでは生活変化を説明できない。
- エ. 身長だけでは生活リズム低下の背景を捉えられない。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「役割と習慣の変化」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「利き目だけ」に対応する説明で、判断対象「役割と習慣の変化」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「血液型だけ」に対応する説明で、判断対象「役割と習慣の変化」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「身長だけ」に対応する説明で、判断対象「役割と習慣の変化」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。退職は役割や日課・習慣を大きく変え、作業参加へ影響する。判断対象は「役割と習慣の変化」。作業遂行を理解するには、能力だけでなく日々の役割・習慣・生活時間の変化を確認する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q009

基礎作業療法学 > 作業・活動・作業遂行 | 標準

片麻痺患者が病棟では更衣できるが、自宅では狭い脱衣所のため困難である。最も適切な解釈はどれか。この論点で、選択肢「病棟でできれば自宅でも必ずできる」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 環境条件が異なれば遂行結果も変わり得る。
- イ. 環境は重要な作業遂行要因である。
- ウ. 認知、手順、道具、環境など複数要因が関与する。
- エ. 同じ人でも空間、道具、支援者、時間などの環境条件で遂行が変化する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「病棟でできれば自宅でも必ずできる」が誤答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「環境は作業遂行に影響しない」に対応する説明で、判断対象「病棟でできれば自宅でも必ずできる」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「更衣能力は筋力だけで決まる」に対応する説明で、判断対象「病棟でできれば自宅でも必ずできる」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「作業遂行は本人の能力だけでなく環境条件との相互作用で変化する」に対応する説明で、判断対象「病棟でできれば自宅でも必ずできる」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。環境条件が異なれば遂行結果も変わり得る。判断対象は「病棟でできれば自宅でも必ずできる」。評価では訓練場面の能力と、実生活場面での作業遂行を区別して確認する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q010

基礎作業療法学 > 作業・活動・作業遂行 | 応用

同じ上肢機能を練習できる2つの活動がある場合、作業療法で活動を選択する考え方として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「治療目的に加え、本人の興味・価値・生活目標を考慮する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 苦痛や拒否を治療効果の指標としない。
- イ. 作業への動機づけや生活への関連性を高めるには、本人にとっての意味を考慮する。
- ウ. 治療者中心ではなく本人中心の選択が重要である。
- エ. 作業療法では意味・役割・文脈も重要である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「本人が嫌う活動ほど必ず効果が高いと考える」に対応する説明で、判断対象「治療目的に加え、本人の興味・価値・生活目標を考慮する」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「治療目的に加え、本人の興味・価値・生活目標を考慮する」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「治療者が好きな活動だけを選ぶ」に対応する説明で、判断対象「治療目的に加え、本人の興味・価値・生活目標を考慮する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「機能的負荷だけが同じなら意味は考慮しない」に対応する説明で、判断対象「治療目的に加え、本人の興味・価値・生活目標を考慮する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。作業への動機づけや生活への関連性を高めるには、本人にとっての意味を考慮する。判断対象は「治療目的に加え、本人の興味・価値・生活目標を考慮する」。活動の治療的価値は身体負荷だけでなく、本人がその作業に置く意味や実生活へのつながりによっても変化する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q011

基礎作業療法学 > 作業療法過程・クリニカルリーズニング | 基礎

作業療法過程の一般的な順序として最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「記録→診断変更→介入だけ」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 評価結果から計画を立て、介入し、効果を判定して記録・報告する流れが基本である。
- イ. 通常は評価なしに介入を先行させない。
- ウ. 効果判定は介入後の結果確認に用いる。
- エ. 作業療法士が診断名を変更する過程ではない。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「スクリーニング・評価→治療計画→介入→効果判定→記録・報告」に対応する説明で、判断対象「記録→診断変更→介入だけ」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「介入→評価→スクリーニング→終了」に対応する説明で、判断対象「記録→診断変更→介入だけ」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「効果判定→介入→評価→目標設定」に対応する説明で、判断対象「記録→診断変更→介入だけ」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「記録→診断変更→介入だけ」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。作業療法士が診断名を変更する過程ではない。判断対象は「記録→診断変更→介入だけ」。作業療法過程は一方方向ではなく、効果判定に基づき評価や計画へ戻って修正する循環的過程でもある。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q012

基礎作業療法学 > 作業療法過程・クリニカルリーズニング | 基礎

作業療法過程におけるスクリーニングの主な目的はどれか。この論点で、選択肢「詳細評価が必要な問題や優先領域を短時間で把握する」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 医学的診断を確定するためだけのものではない。
- イ. 最終効果判定とは時期・目的が異なる。
- ウ. 網羅の詳細検査とは異なる。
- エ. スクリーニングは問題の有無や詳細評価の必要性を効率的に把握する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「診断名を確定する」に対応する説明で、判断対象「詳細評価が必要な問題や優先領域を短時間で把握する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「最終的な治療効果を確定する」に対応する説明で、判断対象「詳細評価が必要な問題や優先領域を短時間で把握する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「全ての検査を詳細に実施する」に対応する説明で、判断対象「詳細評価が必要な問題や優先領域を短時間で把握する」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「詳細評価が必要な問題や優先領域を短時間で把握する」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。スクリーニングは問題の有無や詳細評価の必要性を効率的に把握する。判断対象は「詳細評価が必要な問題や優先領域を短時間で把握する」。スクリーニング結果をもとに、必要な評価項目を選択して評価計画を具体化する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q013

基礎作業療法学 > 作業療法過程・クリニカルリーズニング | 標準

クリニカルリーズニングとして最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「経験年数だけで介入を決める」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 経験は一要素だが、それだけで判断しない。
- イ. 新しい情報に応じて仮説を修正する。
- ウ. 検査結果を生活上の意味と結び付ける必要がある。
- エ. 臨床推論では複数の情報を統合し、仮説を立てて検証・修正する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「経験年数だけで介入を決める」が誤答となる理由を直接説明している。
イ：誤り。これは別の選択肢「一度立てた仮説を修正しない」に対応する説明で、判断対象「経験年数だけで介入を決める」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「検査点数だけを見て生活目標を決める」に対応する説明で、判断対象「経験年数だけで介入を決める」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「評価所見、医学情報、本人の希望、環境、エビデンスを統合して判断する」に対応する説明で、判断対象「経験年数だけで介入を決める」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。経験は一要素だが、それだけで判断しない。判断対象は「経験年数だけで介入を決める」。クリニカルリーズニングは単なる知識再生ではなく、個別事例に知識と情報を適用する思考過程である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q014

基礎作業療法学 > 作業療法過程・クリニカルリーズニング | 標準

片麻痺患者に肩関節可動域制限、軽度注意障害、トイレ移乗時の転倒リスクがある。本人はまず自宅トイレを一人で使いたいと希望している。初期介入で最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「安全なトイレ移乗に直結する要因を優先して評価・介入する」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 本人の優先目標と安全性を踏まえ、移乗に影響する身体・認知・環境要因を優先する。
- イ. 活動選択は目標との関連性が必要である。
- ウ. 緊急性・重要性・本人の希望で優先順位をつける。
- エ. 安全性は重要な判断要素である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「安全なトイレ移乗に直結する要因を優先して評価・介入する」が正答となる理由を直接説明している。
イ：誤り。これは別の選択肢「本人の希望と無関係な手工芸だけを行う」に対応する説明で、判断対象「安全なトイレ移乗に直結する要因を優先して評価・介入する」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「全ての問題を同じ優先度で同時に扱う」に対応する説明で、判断対象「安全なトイレ移乗に直結する要因を優先して評価・介入する」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「転倒リスクを無視して自立を急ぐ」に対応する説明で、判断対象「安全なトイレ移乗に直結する要因を優先して評価・介入する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。本人の優先目標と安全性を踏まえ、移乗に影響する身体・認知・環境要因を優先する。判断対象は「安全なトイレ移乗に直結する要因を優先して評価・介入する」。臨床推論では問題の数だけでなく、本人にとっての重要性、安全性、改善可能性、生活への影響を考える。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q015

基礎作業療法学 > 作業療法過程・クリニカルリーズニング | 標準

4週間の介入後、設定した目標に対する改善がみられず、新たな環境上の問題が判明した。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「同じ介入を理由なく永久に継続する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 反応が乏しい場合は原因を検討する。
- イ. 効果判定と新しい情報をもとに計画を再評価・修正する。
- ウ. 終了判断にも目標達成度と生活状況の確認が必要である。
- エ. 臨床判断に関わる情報は記録・共有する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「同じ介入を理由なく永久に継続する」が誤答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「評価結果と新情報を再検討し、仮説と治療計画を修正する」に対応する説明で、判断対象「同じ介入を理由なく永久に継続する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「目標を確認せず介入を終了する」に対応する説明で、判断対象「同じ介入を理由なく永久に継続する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「新情報を記録しない」に対応する説明で、判断対象「同じ介入を理由なく永久に継続する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。反応が乏しい場合は原因を検討する。判断対象は「同じ介入を理由なく永久に継続する」。作業療法過程は評価・計画・介入・効果判定を循環させることで個別化される。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q016

基礎作業療法学 > 作業療法過程・クリニカルリーズニング | 応用

一人暮らし再開を強く希望する患者に軽度の遂行機能障害があり、服薬管理で重大な誤りがみられる。最も適切な対応はどれか。この論点で、選択肢「本人の希望を尊重しつつリスクを具体的に評価し、代償手段や支援体制を本人と検討する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 自己決定と安全性の双方を考慮し、支援付きで目標を実現できる方法を検討する。
- イ. 本人の意思を無視した一方的決定は避ける。
- ウ. 安全リスクを説明し評価する責任がある。
- エ. 残存能力と代償手段を活用する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「本人の希望を尊重しつつリスクを具体的に評価し、代償手段や支援体制を本人と検討する」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「危険があるので希望を聞かず一律に施設入所を決める」に対応する説明で、判断対象「本人の希望を尊重しつつリスクを具体的に評価し、代償手段や支援体制を本人と検討する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「自己決定を理由に安全評価を行わない」に対応する説明で、判断対象「本人の希望を尊重しつつリスクを具体的に評価し、代償手段や支援体制を本人と検討する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「失敗を避けるため全IADLを家族に代行させる」に対応する説明で、判断対象「本人の希望を尊重しつつリスクを具体的に評価し、代償手段や支援体制を本人と検討する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。自己決定と安全性の双方を考慮し、支援付きで目標を実現できる方法を検討する。判断対象は「本人の希望を尊重しつつリスクを具体的に評価し、代償手段や支援体制を本人と検討する」。臨床推論では医学的安全性だけでなく、自律性、生活の意味、環境支援を統合して意思決定を支える。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q017

基礎作業療法学 > 理論・モデル・作業分析 | 標準

作業療法のトップダウンの考え方として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「全患者に同じ評価を行う」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 診断名だけでは個別の生活課題を把握できない。
- イ. これは要素から積み上げるボトムアップに近い。
- ウ. トップダウンではまず生活上の作業遂行・参加の問題を明らかにし、必要な要因評価へ進む。
- エ. 個別性を重視する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「診断名だけで介入を決める」に対応する説明で、判断対象「全患者に同じ評価を行う」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「筋力検査だけを行って生活課題を推測する」に対応する説明で、判断対象「全患者に同じ評価を行う」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「本人が困っている作業・参加から出発し、その原因となる要因を分析する」に対応する説明で、判断対象「全患者に同じ評価を行う」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「全患者に同じ評価を行う」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。個別性を重視する。判断対象は「全患者に同じ評価を行う」。作業療法では生活上の困難と心身機能を往復し、評価結果を作業遂行へ結び付ける。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q018

基礎作業療法学 > 理論・モデル・作業分析 | 標準

手指筋力は改善したが、職場の机が高すぎてパソコン作業が続けられない。作業遂行を改善する方策として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「本人の能力だけでなく机の高さなど環境も調整する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 能力があっても環境不適合で遂行が阻害されることがある。
- イ. 疼痛悪化を避ける調整を検討する。
- ウ. 作業遂行は人・作業・環境の適合によって変化するため、環境調整も重要である。
- エ. 参加継続を支える方法を優先して検討する。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「筋力が正常なら環境は変えない」に対応する説明で、判断対象「本人の能力だけでなく机の高さなど環境も調整する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「痛みを我慢して同じ机を使う」に対応する説明で、判断対象「本人の能力だけでなく机の高さなど環境も調整する」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「本人の能力だけでなく机の高さなど環境も調整する」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「職業役割を必ず中止する」に対応する説明で、判断対象「本人の能力だけでなく机の高さなど環境も調整する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。作業遂行は人・作業・環境の適合によって変化するため、環境調整も重要である。判断対象は「本人の能力だけでなく机の高さなど環境も調整する」。作業療法モデルは複雑な生活機能を整理する枠組みとして用い、介入可能な要素を明確にする。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q019

基礎作業療法学 > 理論・モデル・作業分析 | 基礎

作業分析で確認する内容として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「検査値だけ」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 診断名だけでは作業要求を把握できない。
- イ. 客観的な作業要求と本人との関係を見る。
- ウ. 検査値だけでは作業の特徴を説明できない。
- エ. 作業分析では作業特性、作業過程、必要能力、物理・社会環境などを分析する。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「診断名だけ」に対応する説明で、判断対象「検査値だけ」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「治療者の好みだけ」に対応する説明で、判断対象「検査値だけ」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「検査値だけ」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「作業の手順、必要能力、道具、環境、危険性など」に対応する説明で、判断対象「検査値だけ」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。検査値だけでは作業の特徴を説明できない。判断対象は「検査値だけ」。作業分析は『何が必要な作業か』を明らかにし、評価・段階づけ・環境調整へつなげる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q020

基礎作業療法学 > 理論・モデル・作業分析 | 標準

調理訓練の難易度を下げる方法として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「工程数を減らし、必要な道具を事前に配置する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 工程数や選択肢、道具配置を調整すると認知・身体的要求を下げられる。
- イ. 時間圧が増す。
- ウ. 手順複雑性が増す。
- エ. 課題量が増えて難易度が上がる。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「工程数を減らし、必要な道具を事前に配置する」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「時間制限を短くする」に対応する説明で、判断対象「工程数を減らし、必要な道具を事前に配置する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「複雑な手順を追加する」に対応する説明で、判断対象「工程数を減らし、必要な道具を事前に配置する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「同時に作る料理数を増やす」に対応する説明で、判断対象「工程数を減らし、必要な道具を事前に配置する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。工程数や選択肢、道具配置を調整すると認知・身体的要求を下げられる。判断対象は「工程数を減らし、必要な道具を事前に配置する」。段階づけでは作業要求のどの要素を変えると成功可能性が上がるかを分析する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q021

基礎作業療法学 > 理論・モデル・作業分析 | 応用

片手での調理を希望する患者に対し、包丁操作が不安定で危険がある。最も適切な介入はどれか。この論点で、選択肢「調理を永久に禁止する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 安全な方法を選択する必要がある。
- イ. 本人の目標を維持しながら、道具・手順・環境を適応して安全な遂行を目指す。
- ウ. 代償手段や環境調整の可能性を検討する。
- エ. 機能回復と並行して実生活への代償的介入も可能である。

OT04 Q022

基礎作業療法学 > EBM・NBM・研究 | 標準

EBM Evidence-Based Medicine の実践として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「利用可能な最良の研究根拠を臨床経験や本人の価値観・状況と統合する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 安全性・適用可能性を判断する必要がある。
- イ. EBMは研究エビデンスだけでなく、臨床専門性と患者の価値・状況を統合する考え方である。
- ウ. 経験だけに依存しない。
- エ. 個別性と意思決定を考慮する。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「危険性を説明せず通常の包丁を使わせる」に対応する説明で、判断対象「調理を永久に禁止する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「固定具や滑り止めを試し、片手で安全に遂行できる作業方法へ適応する」に対応する説明で、判断対象「調理を永久に禁止する」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「調理を永久に禁止する」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「筋力が回復するまで生活課題を一切扱わない」に対応する説明で、判断対象「調理を永久に禁止する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。代償手段や環境調整の可能性を検討する。判断対象は「調理を永久に禁止する」。作業分析は機能訓練だけでなく、自助具、環境調整、手順変更など作業適応の根拠となる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「研究結果があれば安全性評価は不要と考える」に対応する説明で、判断対象「利用可能な最良の研究根拠を臨床経験や本人の価値観・状況と統合する」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「利用可能な最良の研究根拠を臨床経験や本人の価値観・状況と統合する」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「経験だけで治療法を決める」に対応する説明で、判断対象「利用可能な最良の研究根拠を臨床経験や本人の価値観・状況と統合する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「論文の結論だけを本人の希望に関係なく適用する」に対応する説明で、判断対象「利用可能な最良の研究根拠を臨床経験や本人の価値観・状況と統合する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。EBMは研究エビデンスだけでなく、臨床専門性と患者の価値・状況を統合する考え方である。判断対象は「利用可能な最良の研究根拠を臨床経験や本人の価値観・状況と統合する」。作業療法におけるエビデンス活用では、研究結果を個別事例へそのまま当てはめず適用可能性を吟味する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q023

基礎作業療法学 > EBM・NBM・研究 | 標準

NBM Narrative Based Medicine で重視されるのはどれか。この論点で、選択肢「治療者の物語だけ」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. NBMは患者の語りを通して病いの経験、価値観、生活文脈を理解する。
- イ. 客観データだけでは本人の経験を十分に捉えられない。
- ウ. 中心となるのは本人の語りと対話である。
- エ. 診断名だけでは生活上の意味を理解できない。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「本人が病気や生活をどのように経験し意味づけているかという語り」に対応する説明で、判断対象「治療者の物語だけ」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「検査値だけ」に対応する説明で、判断対象「治療者の物語だけ」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「治療者の物語だけ」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「診断名だけ」に対応する説明で、判断対象「治療者の物語だけ」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。中心となるのは本人の語りと対話である。判断対象は「治療者の物語だけ」。EBMとNBMは対立する概念ではなく、客観的根拠と個人の経験を統合するため相補的に用いられる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q024

基礎作業療法学 > EBM・NBM・研究 | 応用

作業療法の介入研究を行う際に最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「研究目的・方法・利益と不利益を説明し、自由意思による同意と倫理審査を適切に行う」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 診療情報の研究利用には法令・倫理指針等に基づく適切な手続が必要である。
- イ. 人を対象とする研究では説明・同意、倫理審査、個人情報保護、科学的公正性が重要である。
- ウ. 研究参加は自由意思であり、不参加による不当な不利益を避ける。
- エ. 選択的なデータ除外は研究公正を損なう。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「診療中の患者データは無断で研究利用してよい」に対応する説明で、判断対象「研究目的・方法・利益と不利益を説明し、自由意思による同意と倫理審査を適切に行う」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「研究目的・方法・利益と不利益を説明し、自由意思による同意と倫理審査を適切に行う」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「参加拒否によって通常診療を不利益に扱う」に対応する説明で、判断対象「研究目的・方法・利益と不利益を説明し、自由意思による同意と倫理審査を適切に行う」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「研究結果に都合の悪いデータを削除する」に対応する説明で、判断対象「研究目的・方法・利益と不利益を説明し、自由意思による同意と倫理審査を適切に行う」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。人を対象とする研究では説明・同意、倫理審査、個人情報保護、科学的公正性が重要である。判断対象は「研究目的・方法・利益と不利益を説明し、自由意思による同意と倫理審査を適切に行う」。研究は科学的価値だけでなく対象者の権利・安全・プライバシーを守って実施する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q025

作業療法管理・倫理・法規 > 職業倫理・生命医療倫理 | 基礎

理学療法士及び作業療法士法上の守秘義務について正しいのはどれか。この論点で、選択肢「退職すれば守秘義務は消滅する」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 法第16条は、資格を失った後も守秘義務が続くことを定めている。
- イ. 情報提供には本人の意思、必要性、法令上の根拠などを確認する。
- ウ. 匿名化が不十分なら個人が推測されることがあり、職務上の秘密保護が必要である。
- エ. 退職・離職後も守秘義務は続く。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「作業療法士でなくなった後も、正当な理由なく業務上知り得た秘密を漏らしてはならない」に対応する説明で、判断対象「退職すれば守秘義務は消滅する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「家族から聞かれれば本人の同意なく必ず全情報を伝える」に対応する説明で、判断対象「退職すれば守秘義務は消滅する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「SNSでは匿名なら診療内容を自由に公開できる」に対応する説明で、判断対象「退職すれば守秘義務は消滅する」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「退職すれば守秘義務は消滅する」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。退職・離職後も守秘義務は続く。判断対象は「退職すれば守秘義務は消滅する」。守秘義務は専門職倫理だけでなく法的義務でもあり、業務を離れた後も継続する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q026

作業療法管理・倫理・法規 > 職業倫理・生命医療倫理 | 標準

作業療法を開始する際の説明と同意として最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「目的・方法・期待される利益や負担を分かりやすく説明し、本人の意思を確認する」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 質問の機会を確保することが重要である。
- イ. 原則として適切な説明が必要である。
- ウ. 本人が理解した上で選択できるよう説明し、意思決定を支援する。
- エ. 同意は状況に応じて撤回や変更があり得る。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「本人が質問することを避ける」に対応する説明で、判断対象「目的・方法・期待される利益や負担を分かりやすく説明し、本人の意思を確認する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「専門職が最善と思えば説明を省略する」に対応する説明で、判断対象「目的・方法・期待される利益や負担を分かりやすく説明し、本人の意思を確認する」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「目的・方法・期待される利益や負担を分かりやすく説明し、本人の意思を確認する」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「一度同意したら本人は撤回できない」に対応する説明で、判断対象「目的・方法・期待される利益や負担を分かりやすく説明し、本人の意思を確認する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。本人が理解した上で選択できるよう説明し、意思決定を支援する。判断対象は「目的・方法・期待される利益や負担を分かりやすく説明し、本人の意思を確認する」。インフォームド・コンセントは単なる署名取得ではなく、理解と自発的な意思決定を支える過程である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q027

作業療法管理・倫理・法規 > 職業倫理・生命医療倫理 | 基礎

日本作業療法士協会の倫理綱領に沿う対応はどれか。この論点で、選択肢「支援者と価値観が異なる人を一律に拒否する」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 必要な説明は個人の理解に合わせて行い、社会的地位で差別しない。
- イ. 価値観の違いを理由に不当な差別を行わない。
- ウ. 倫理綱領は人権尊重と差別の禁止を明記している。
- エ. 障害があっても本人の意思を尊重する。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「社会的地位によって説明内容を変える」に対応する説明で、判断対象「支援者と価値観が異なる人を一律に拒否する」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「支援者と価値観が異なる人を一律に拒否する」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「思想・信条・社会的地位などにかかわらず個人の人権を尊重する」に対応する説明で、判断対象「支援者と価値観が異なる人を一律に拒否する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「障害を理由に本人の希望を聞かない」に対応する説明で、判断対象「支援者と価値観が異なる人を一律に拒否する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。価値観の違いを理由に不当な差別を行わない。判断対象は「支援者と価値観が異なる人を一律に拒否する」。専門職倫理では人権・尊厳・公平性を守り、本人中心の支援を行うことが求められる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q028

作業療法管理・倫理・法規 > 職業倫理・生命医療倫理 | 応用

作業療法士が、自身が経済的利益を得る福祉用具会社の商品を患者へ勧める場合に最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「利益相反を認識・開示し、患者にとっての利益を優先して選択肢を説明する」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 利害関係が判断へ影響し得るため、透明性を確保して患者利益を優先する。
- イ. 利害関係の隠蔽は公正な意思決定を損なう。
- ウ. 利益相反は職業倫理上重要な論点である。
- エ. 本人の希望・選択を確認する必要がある。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「利益相反を認識・開示し、患者にとっての利益を優先して選択肢を説明する」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「利益関係を隠して自社製品だけを勧める」に対応する説明で、判断対象「利益相反を認識・開示し、患者にとっての利益を優先して選択肢を説明する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「利益相反は医療では問題にならないと考える」に対応する説明で、判断対象「利益相反を認識・開示し、患者にとっての利益を優先して選択肢を説明する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「患者の希望を確認しない」に対応する説明で、判断対象「利益相反を認識・開示し、患者にとっての利益を優先して選択肢を説明する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。利害関係が判断へ影響し得るため、透明性を確保して患者利益を優先する。判断対象は「利益相反を認識・開示し、患者にとっての利益を優先して選択肢を説明する」。利益相反そのものが直ちに不正なものではなく、認識・開示・適切な管理が重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q029

作業療法管理・倫理・法規 > 医療安全・感染対策 | 基礎

標準予防策に基づく個人防護具の使用として最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「感染症と診断された患者にだけ個人防護具を使用する」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 手袋は患者・処置間で適切に交換し、手指衛生も行う。
- イ. 曝露が予想される場合は状況に応じガウンや眼・顔面防護具を用いる。
- ウ. 標準予防策は感染症診断の有無にかかわらず全患者に適用する。
- エ. 標準予防策では予想される曝露に応じて適切な個人防護具を選択する。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「手袋を着用すれば患者ごとの交換は不要である」に対応する説明で、判断対象「感染症と診断された患者にだけ個人防護具を使用する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「血液曝露が予想されてもガウンや眼の防護は不要である」に対応する説明で、判断対象「感染症と診断された患者にだけ個人防護具を使用する」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「感染症と診断された患者にだけ個人防護具を使用する」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「血液・体液への曝露が予想される処置では、曝露部位に応じた個人防護具を選択する」に対応する説明で、判断対象「感染症と診断された患者にだけ個人防護具を使用する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。標準予防策は感染症診断の有無にかかわらず全患者に適用する。判断対象は「感染症と診断された患者にだけ個人防護具を使用する」。標準予防策では全患者を対象に手指衛生を基本とし、血液・体液等への曝露リスクに応じて手袋、ガウン、マスク、眼の防護具などを選択する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q030

作業療法管理・倫理・法規 > 医療安全・感染対策 | 標準

医療安全におけるインシデントの説明として最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「誤った行為が患者に実施される前に発見された、または実施されたが結果として患者への影響に至らなかった事例などを含む」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 安全上の問題や危険につながる事例を扱う。
- イ. 厚生労働省はインシデントをヒヤリ・ハットを含む概念として整理している。
- ウ. 患者に影響が生じた医療事故はアクシデントとして扱われる。
- エ. 再発防止のため報告・分析が重要である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「医療行為と無関係な成功事例だけを指す」に対応する説明で、判断対象「誤った行為が患者に実施される前に発見された、または実施されたが結果として患者への影響に至らなかった事例などを含む」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「誤った行為が患者に実施される前に発見された、または実施されたが結果として患者への影響に至らなかった事例などを含む」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「患者に重大な障害が生じた事故だけを指す」に対応する説明で、判断対象「誤った行為が患者に実施される前に発見された、または実施されたが結果として患者への影響に至らなかった事例などを含む」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「報告する必要のない出来事を指す」に対応する説明で、判断対象「誤った行為が患者に実施される前に発見された、または実施されたが結果として患者への影響に至らなかった事例などを含む」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。厚生労働省はインシデントをヒヤリ・ハットを含む概念として整理している。判断対象は「誤った行為が患者に実施される前に発見された、または実施されたが結果として患者への影響に至らなかった事例などを含む」。インシデント報告の目的は個人を責めることではなく、危険要因を共有し再発防止へつなげることである。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q031

作業療法管理・倫理・法規 > 医療安全・感染対策 | 標準

患者の体液に触れる可能性がある作業療法場面で最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「手袋をすれば手指衛生は不要である」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 手袋は手指衛生の代替ではなく、使用前後の適切な感染対策が必要である。
- イ. 患者間で手袋を交換する。
- ウ. 環境表面への汚染拡大を防ぐ必要がある。
- エ. 手袋を外した後も手指衛生を行う。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「必要な手袋を着用し、手袋を外した後も適切に手指衛生を行う」に対応する説明で、判断対象「手袋をすれば手指衛生は不要である」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「同じ手袋で複数患者を続けて介助する」に対応する説明で、判断対象「手袋をすれば手指衛生は不要である」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「汚染した手袋のまま電子端末を操作する」に対応する説明で、判断対象「手袋をすれば手指衛生は不要である」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「手袋をすれば手指衛生は不要である」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。手袋を外した後も手指衛生を行う。判断対象は「手袋をすれば手指衛生は不要である」。感染予防では『どこが汚染された可能性があるか』を考え、手指・物品・環境の交差汚染を防ぐ。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q032

作業療法管理・倫理・法規 > 医療安全・感染対策 | 応用

同じ種類の福祉用具の取り違えが繰り返し起きている。再発防止策として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「個人への注意だけで終わらず、保管場所・表示・確認手順などシステム要因を見直す」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 原因に応じた改善が必要である。
- イ. 報告を減らすと危険を把握できなくなる。
- ウ. 個人への非難だけでは再発防止につながりにくい。
- エ. 反復するエラーでは環境・手順・情報伝達などシステム要因を分析する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「原因分析を行わず同じ手順を続ける」に対応する説明で、判断対象「個人への注意だけで終わらず、保管場所・表示・確認手順などシステム要因を見直す」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「報告を禁止して件数を減らす」に対応する説明で、判断対象「個人への注意だけで終わらず、保管場所・表示・確認手順などシステム要因を見直す」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「担当者を叱責するだけで終わる」に対応する説明で、判断対象「個人への注意だけで終わらず、保管場所・表示・確認手順などシステム要因を見直す」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「個人への注意だけで終わらず、保管場所・表示・確認手順などシステム要因を見直す」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。反復するエラーでは環境・手順・情報伝達などシステム要因を分析する。判断対象は「個人への注意だけで終わらず、保管場所・表示・確認手順などシステム要因を見直す」。ヒューマンエラーを前提に、間違いにくい仕組みや確認手順を設計することが医療安全では重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q033

作業療法管理・倫理・法規 > 記録・個人情報・情報管理 | 基礎

SOAP形式の記録で、患者が『今日は右肩が昨日より痛い』と述べた内容を記載する項目はどれか。この論点で、選択肢「O : Objective」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. Oには観察・測定など客観的情報を記載する。
- イ. 本人の訴えや主観的情報はSに記載する。
- ウ. Aには情報を統合した評価・解釈を記載する。
- エ. Pには今後の計画を記載する。

OT04 Q034

作業療法管理・倫理・法規 > 記録・個人情報・情報管理 | 標準

患者のリハビリテーション情報を院内の多職種で共有する際に最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「診療・ケアに必要な目的と範囲を確認し、適切な方法で共有する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 目的外利用や第三者提供等では法令・ガイドンスに沿った確認が必要である。
- イ. 業務上の必要性なく閲覧すべきではない。
- ウ. 個人情報は利用目的、必要性、アクセス権限、組織のルールに沿って扱う。
- エ. 情報漏えいリスクがあり組織の規程に従う。

答え・4肢解説

正答：ア

- ア：正しい。これは判断対象「O : Objective」が誤答となる理由を直接説明している。
- イ：誤り。これは別の選択肢「S : Subjective」に対応する説明で、判断対象「O : Objective」の直接の根拠ではない。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「A : Assessment」に対応する説明で、判断対象「O : Objective」の直接の根拠ではない。
- エ：誤り。これは別の選択肢「P : Plan」に対応する説明で、判断対象「O : Objective」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。Oには観察・測定など客観的情報を記載する。判断対象は「O : Objective」。SOAPは主観情報、客観情報、評価、計画を分けることで臨床推論と情報共有を明確にする。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：ウ

- ア：誤り。これは別の選択肢「目的が変わっても説明や手続を確認しない」に対応する説明で、判断対象「診療・ケアに必要な目的と範囲を確認し、適切な方法で共有する」の直接の根拠ではない。
- イ：誤り。これは別の選択肢「興味がある職員なら誰でも閲覧できる」に対応する説明で、判断対象「診療・ケアに必要な目的と範囲を確認し、適切な方法で共有する」の直接の根拠ではない。
- ウ：正しい。これは判断対象「診療・ケアに必要な目的と範囲を確認し、適切な方法で共有する」が正答となる理由を直接説明している。
- エ：誤り。これは別の選択肢「患者情報を私物端末へ無断保存する」に対応する説明で、判断対象「診療・ケアに必要な目的と範囲を確認し、適切な方法で共有する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。個人情報は利用目的、必要性、アクセス権限、組織のルールに沿って扱う。判断対象は「診療・ケアに必要な目的と範囲を確認し、適切な方法で共有する」。個人情報保護は『共有しないこと』ではなく、必要な診療情報を安全・適切に共有するための管理である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q035

作業療法管理・倫理・法規 > 記録・個人情報・情報管理 | 標準

電子カルテ端末の情報セキュリティ対策として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「不要になった患者データを私物USBへ保存する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 不要な複製や私物媒体への保存を避ける。
- イ. アクセス管理と認証情報の適切な管理は基本的な情報セキュリティ対策である。
- ウ. 利用者を識別できず、不正アクセスのリスクが高まる。
- エ. 患者情報を私的サービスへ送信しない。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「不要になった患者データを私物USBへ保存する」が誤答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「離席時に画面をロックし、個人の認証情報を他人と共有しない」に対応する説明で、判断対象「不要になった患者データを私物USBへ保存する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「共通パスワードを掲示して全員で使う」に対応する説明で、判断対象「不要になった患者データを私物USBへ保存する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「患者情報を個人SNSへ送信する」に対応する説明で、判断対象「不要になった患者データを私物USBへ保存する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。不要な複製や私物媒体への保存を避ける。判断対象は「不要になった患者データを私物USBへ保存する」。情報管理では機密性・完全性・可用性を保ち、アクセス権限と端末・媒体の管理を徹底する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q036

作業療法管理・倫理・法規 > 教育・質管理・多職種連携 | 基礎

作業療法士の卒後教育について最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「資格取得後も知識・技能を更新し、自己研鑽を継続する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 専門職として実践水準を維持するため継続的な学習が必要である。
- イ. 経験と最新知見の双方が必要である。
- ウ. 医療・福祉・作業療法の知識は更新される。
- エ. 日本作業療法士協会の倫理綱領でも学術的研鑽が重視される。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「資格取得後も知識・技能を更新し、自己研鑽を継続する」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「経験年数が増えれば新しい知識は不要である」に対応する説明で、判断対象「資格取得後も知識・技能を更新し、自己研鑽を継続する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「国家試験合格後は学習不要である」に対応する説明で、判断対象「資格取得後も知識・技能を更新し、自己研鑽を継続する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「研修参加は専門職倫理と無関係である」に対応する説明で、判断対象「資格取得後も知識・技能を更新し、自己研鑽を継続する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。専門職として実践水準を維持するため継続的な学習が必要である。判断対象は「資格取得後も知識・技能を更新し、自己研鑽を継続する」。生涯教育は個人の能力向上だけでなく、提供する作業療法の質を維持・向上するために重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q037

作業療法管理・倫理・法規 > 教育・質管理・多職種連携 | 標準

業務の質改善でPDCAサイクルを用いる場合、評価結果を確認して改善策を次の計画へ反映する段階はどれか。この論点で、選択肢「Checkだけで終了」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. Doは計画を実行する段階である。
- イ. 評価だけで終えず改善へつなげることが重要である。
- ウ. Planは目標や方法を計画する段階である。
- エ. Checkで結果を評価し、Actで改善を行い次のPlanへつなげる。

OT04 Q038

作業療法管理・倫理・法規 > 教育・質管理・多職種連携 | 応用

退院支援で医師、看護師、作業療法士、ケアマネジャーの意見が異なる。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「本人の生活目標を確認し、各職種の評価と役割を共有して共通目標を調整する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 支援が断片化しやすい。
- イ. 一職種だけで生活全体を決めない。
- ウ. 多職種連携では本人中心の共通目標と、専門性を生かした情報共有が重要である。
- エ. 可能な限り本人の意思決定参加を支える。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「Do」に対応する説明で、判断対象「Checkだけで終了」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「Checkだけで終了」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「Plan」に対応する説明で、判断対象「Checkだけで終了」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「Act」に対応する説明で、判断対象「Checkだけで終了」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。評価だけで終えず改善へつなげることが重要である。判断対象は「Checkだけで終了」。質管理は単発の監査ではなく、目標設定・実施・評価・改善を循環させる継続的な取り組みである。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「各職種が別々に介入し情報共有しない」に対応する説明で、判断対象「本人の生活目標を確認し、各職種の評価と役割を共有して共通目標を調整する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「作業療法士だけの判断を優先する」に対応する説明で、判断対象「本人の生活目標を確認し、各職種の評価と役割を共有して共通目標を調整する」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「本人の生活目標を確認し、各職種の評価と役割を共有して共通目標を調整する」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「本人を話し合いから除外する」に対応する説明で、判断対象「本人の生活目標を確認し、各職種の評価と役割を共有して共通目標を調整する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。多職種連携では本人中心の共通目標と、専門性を生かした情報共有が重要である。判断対象は「本人の生活目標を確認し、各職種の評価と役割を共有して共通目標を調整する」。多職種連携の目的は職種間の調整そのものではなく、本人の生活目標をより安全かつ効果的に実現することである。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q039

作業療法管理・倫理・法規 > 医療保険・介護保険・障害福祉等 | 基礎

理学療法士及び作業療法士法上の作業療法士の説明として正しいのはどれか。この論点で、選択肢「医師の指示と無関係に医療行為全般を行う者」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 作業療法士は名称の使用が法で規律される国家資格である。
- イ. 作業療法士の医療上の業務には法令上の範囲がある。
- ウ. 法第2条は作業療法士をこのように定義している。
- エ. 免許は厚生労働大臣が与える。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「資格がなくても作業療法士を名乗れる者」に対応する説明で、判断対象「医師の指示と無関係に医療行為全般を行う者」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「医師の指示と無関係に医療行為全般を行う者」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「厚生労働大臣の免許を受け、作業療法士の名称を用いて、医師の指示の下に作業療法を行うことを業とする者」に対応する説明で、判断対象「医師の指示と無関係に医療行為全般を行う者」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「都道府県知事の登録だけで自由に診断を行う者」に対応する説明で、判断対象「医師の指示と無関係に医療行為全般を行う者」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。作業療法士の医療上の業務には法令上の範囲がある。判断対象は「医師の指示と無関係に医療行為全般を行う者」。作業療法士法規では資格の定義、業務、守秘義務、名称使用制限などの基本を理解する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q040

作業療法管理・倫理・法規 > 医療保険・介護保険・障害福祉等 | 基礎

介護保険の第1号被保険者として正しいのはどれか。この論点で、選択肢「市町村の区域内に住所を有する65歳以上の者」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 第2号被保険者は40歳以上65歳未満の医療保険加入者であり、この記述とは異なる。
- イ. 被保険者資格は要介護認定の有無とは別に定められる。
- ウ. 40歳未満は介護保険の被保険者区分に該当しない。
- エ. 介護保険の第1号被保険者は、市町村の区域内に住所を有する65歳以上の者である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「65歳未満のすべての医療保険未加入者」に対応する説明で、判断対象「市町村の区域内に住所を有する65歳以上の者」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「年齢にかかわらず要介護認定を受けた者だけ」に対応する説明で、判断対象「市町村の区域内に住所を有する65歳以上の者」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「40歳未満のすべての住民」に対応する説明で、判断対象「市町村の区域内に住所を有する65歳以上の者」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「市町村の区域内に住所を有する65歳以上の者」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。介護保険の第1号被保険者は、市町村の区域内に住所を有する65歳以上の者である。判断対象は「市町村の区域内に住所を有する65歳以上の者」。介護保険では65歳以上を第1号被保険者、40歳以上65歳未満の医療保険加入者を第2号被保険者として区分する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q041

作業療法管理・倫理・法規 > 医療保険・介護保険・障害福祉等 | 標準

介護保険の要介護認定について正しいのはどれか。この論点で、選択肢「作業療法士が単独で介護度を確定する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 同年齢でも状態・介護必要度は異なる。
- イ. 市町村等が所定の認定手続を行う。
- ウ. 心身状態や介護の手間を一定の手続で評価して認定する。
- エ. 疾病名だけで介護度は決まらない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「年齢だけで介護度が決まる」に対応する説明で、判断対象「作業療法士が単独で介護度を確定する」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「作業療法士が単独で介護度を確定する」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「認定調査や主治医意見書などを用いて介護の必要度を判定する」に対応する説明で、判断対象「作業療法士が単独で介護度を確定する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「疾患名だけで自動的に要介護5になる」に対応する説明で、判断対象「作業療法士が単独で介護度を確定する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。市町村等が所定の認定手続を行う。判断対象は「作業療法士が単独で介護度を確定する」。介護保険では診断名と生活上の介護必要度を区別して理解する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q042

作業療法管理・倫理・法規 > 医療保険・介護保険・障害福祉等 | 標準

障害福祉サービスの就労移行支援について正しいのはどれか。この論点で、選択肢「一般企業等への就労が見込まれる人に、一定期間、就労に必要な知識や能力向上のための訓練を行う」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 就労移行支援は一般就労への移行に向けて訓練・求職活動等を支援する。
- イ. 雇用契約に基づく就労機会提供は就労継続支援A型の特徴である。
- ウ. 一般就労後の定着支援は就労定着支援が担う。
- エ. 本人の希望と適性を踏まえる。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「一般企業等への就労が見込まれる人に、一定期間、就労に必要な知識や能力向上のための訓練を行う」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「雇用契約を結んだ就労の場を恒久的に提供することだけが目的である」に対応する説明で、判断対象「一般企業等への就労が見込まれる人に、一定期間、就労に必要な知識や能力向上のための訓練を行う」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「一般就労後の職場定着だけを行うサービスである」に対応する説明で、判断対象「一般企業等への就労が見込まれる人に、一定期間、就労に必要な知識や能力向上のための訓練を行う」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「就労希望の確認を行わない」に対応する説明で、判断対象「一般企業等への就労が見込まれる人に、一定期間、就労に必要な知識や能力向上のための訓練を行う」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。就労移行支援は一般就労への移行に向けて訓練・求職活動等を支援する。判断対象は「一般企業等への就労が見込まれる人に、一定期間、就労に必要な知識や能力向上のための訓練を行う」。就労系障害福祉サービスは目的と対象が異なるため、本人の就労段階に応じて選択する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q043

作業療法管理・倫理・法規 > 医療保険・介護保険・障害福祉等 | 標準

就労継続支援A型とB型の違いとして正しいのはどれか。この論点で、選択肢「A型は就労と無関係な医療サービスである」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 雇用契約の有無はA型とB型を区別する重要な点である。
- イ. 対象や支援形態が異なる。
- ウ. B型は雇用契約に基づく就労が困難な人を主な対象とする。
- エ. A型は障害福祉の就労系サービスである。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「A型は原則として雇用契約に基づく就労機会を提供し、B型は雇用契約に基づく就労が困難な人へ就労・生産活動の機会を提供する」に対応する説明で、判断対象「A型は就労と無関係な医療サービスである」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「A型とB型に制度上の違いはない」に対応する説明で、判断対象「A型は就労と無関係な医療サービスである」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「B型だけが必ず一般企業と雇用契約を結ぶ」に対応する説明で、判断対象「A型は就労と無関係な医療サービスである」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「A型は就労と無関係な医療サービスである」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。A型は障害福祉の就労系サービスである。判断対象は「A型は就労と無関係な医療サービスである」。就労支援ではサービス名だけでなく、一般就労への可能性、雇用契約、支援ニーズを整理する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q044

作業療法管理・倫理・法規 > 医療保険・介護保険・障害福祉等 | 応用

障害福祉の就労系サービスについて正しいのはどれか。この論点で、選択肢「就労定着支援は一般就労後の生活・職場上の課題への支援を行い、就労選択支援は本人が就労先や働き方を選ぶためのアセスメント等を行う」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 就労定着支援は一般就労後の職場・生活面の課題を支援する。
- イ. 障害者総合支援法に基づく就労系障害福祉サービスである。
- ウ. 両者は就労の段階と目的が異なる。
- エ. 就労選択支援は就労アセスメントを通じた選択支援を行う。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「就労定着支援は就職前の学校教育だけを行う」に対応する説明で、判断対象「就労定着支援は一般就労後の生活・職場上の課題への支援を行い、就労選択支援は本人が就労先や働き方を選ぶためのアセスメント等を行う」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「どちらも介護保険サービスである」に対応する説明で、判断対象「就労定着支援は一般就労後の生活・職場上の課題への支援を行い、就労選択支援は本人が就労先や働き方を選ぶためのアセスメント等を行う」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「就労定着支援は一般就労後の生活・職場上の課題への支援を行い、就労選択支援は本人が就労先や働き方を選ぶためのアセスメント等を行う」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「就労選択支援は退院支援だけを行う」に対応する説明で、判断対象「就労定着支援は一般就労後の生活・職場上の課題への支援を行い、就労選択支援は本人が就労先や働き方を選ぶためのアセスメント等を行う」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。両者は就労の段階と目的が異なる。判断対象は「就労定着支援は一般就労後の生活・職場上の課題への支援を行い、就労選択支援は本人が就労先や働き方を選ぶためのアセスメント等を行う」。2026年時点では就労選択支援を含む5種類の就労系障害福祉サービスが厚生労働省により整理されている。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q045

評価過程 > 面接・観察・情報収集 | 標準

初回面接で本人が重視している生活課題を把握する質問として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「「右手が使えないから着替えができませんね」」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 誘導的で、本人の体験を決めつけている。
- イ. 開かれた質問は本人の困り事、優先順位、価値観を把握しやすい。
- ウ. 本人自身の希望を確認する必要がある。
- エ. 同意を前提にした閉じた質問である。

OT04 Q046

評価過程 > 面接・観察・情報収集 | 基礎

作業遂行を観察する主な利点はどれか。この論点で、選択肢「検査室での能力だけでは分からない実際の手順や代償、安全性を確認できる」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 価値観は面接など他の情報も必要である。
- イ. 実際の動作観察から手順、効率、エラー、代償、安全性などを捉えられる。
- ウ. 観察と標準化検査は目的に応じて併用する。
- エ. 医学的診断を確定するものではない。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「「右手が使えないから着替えができませんね」」が誤答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「「今の生活で特に困っていることや、できるようになりたいことは何ですか」」に対応する説明で、判断対象「「右手が使えないから着替えができませんね」」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「「家族が言う目標に従えばよいですね」」に対応する説明で、判断対象「「右手が使えないから着替えができませんね」」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「「訓練は毎日2時間できますね」」に対応する説明で、判断対象「「右手が使えないから着替えができませんね」」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。誘導的で、本人の体験を決めつけている。判断対象は「「右手が使えないから着替えができませんね」」。評価面接では質問だけでなく、本人の語りを傾聴し、重要な作業や生活背景を明らかにする。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「本人の価値観を観察だけで完全に把握できる」に対応する説明で、判断対象「検査室での能力だけでは分からない実際の手順や代償、安全性を確認できる」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「検査室での能力だけでは分からない実際の手順や代償、安全性を確認できる」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「すべての標準化検査が不要になる」に対応する説明で、判断対象「検査室での能力だけでは分からない実際の手順や代償、安全性を確認できる」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「診断名を確定できる」に対応する説明で、判断対象「検査室での能力だけでは分からない実際の手順や代償、安全性を確認できる」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。実際の動作観察から手順、効率、エラー、代償、安全性などを捉えられる。判断対象は「検査室での能力だけでは分からない実際の手順や代償、安全性を確認できる」。作業療法評価では面接・観察・検査・測定を組み合わせ、異なる角度から生活機能を把握する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q047

評価過程 > 面接・観察・情報収集 | 標準

作業療法評価前の情報収集として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「医療上の禁忌を確認せず評価を開始する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 眠気、血圧、筋緊張などに薬剤が影響することがある。
- イ. 疾患経過、検査、画像、服薬、リスク情報は評価計画と安全管理に重要である。
- ウ. 病期や治療内容も確認する。
- エ. 安全な評価のため禁忌・注意事項を確認する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「服薬情報は作業遂行に影響しないと考える」に対応する説明で、判断対象「医療上の禁忌を確認せず評価を開始する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「診療録から疾患経過、画像・検査、服薬、安静度などを確認する」に対応する説明で、判断対象「医療上の禁忌を確認せず評価を開始する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「診断名以外の医学情報は見ない」に対応する説明で、判断対象「医療上の禁忌を確認せず評価を開始する」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「医療上の禁忌を確認せず評価を開始する」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。安全な評価のため禁忌・注意事項を確認する。判断対象は「医療上の禁忌を確認せず評価を開始する」。情報収集は単なる事前知識ではなく、何を安全に評価し、結果をどう解釈するかを決める基盤となる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q048

評価過程 > 面接・観察・情報収集 | 応用

認知症患者について、本人は『薬は自分で管理できる』と話す、家族は飲み忘れが多いと説明している。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「双方の情報を尊重し、実際の服薬管理場面や認知機能も評価して整合性を確認する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 自己認識低下がある場合もあり、複数情報を確認する。
- イ. 情報の不一致はむしろ評価仮説を深める材料となる。
- ウ. 家族情報も重要だが、本人の能力を直接評価する必要がある。
- エ. 情報源の違いを手掛かりに、実際の遂行と関連機能を追加評価する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「本人の発言だけを無条件に採用する」に対応する説明で、判断対象「双方の情報を尊重し、実際の服薬管理場面や認知機能も評価して整合性を確認する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「食い違いがあるため評価を中止する」に対応する説明で、判断対象「双方の情報を尊重し、実際の服薬管理場面や認知機能も評価して整合性を確認する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「家族の発言だけで能力を断定する」に対応する説明で、判断対象「双方の情報を尊重し、実際の服薬管理場面や認知機能も評価して整合性を確認する」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「双方の情報を尊重し、実際の服薬管理場面や認知機能も評価して整合性を確認する」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。情報源の違いを手掛かりに、実際の遂行と関連機能を追加評価する。判断対象は「双方の情報を尊重し、実際の服薬管理場面や認知機能も評価して整合性を確認する」。臨床情報は一つの情報源を絶対視せず、面接・観察・検査を突き合わせて信頼性と意味を判断する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q049

評価過程 > 評価計画・目標設定 | 基礎

評価計画を立てる際に最も重要なのはどれか。この論点で、選択肢「毎回全患者に同じ検査セットを行う」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 評価は目的に応じて必要十分な項目を選択する。
- イ. 疾患・病期・目標・環境で評価項目は変わる。
- ウ. 時間だけでなく妥当性、安全性、臨床の有用性を考える。
- エ. 不要な検査は負担を増やし、重要情報が埋もれることがある。

OT04 Q050

評価過程 > 評価計画・目標設定 | 標準

新しい評価を実施する前の対応として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「評価の目的・方法・負担を説明し、本人の理解と協力を得る」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 不安や疑問へ対応する。
- イ. 評価も本人の理解と同意・協力を得ながら行う。
- ウ. 評価結果を何に使うかを伝えることは重要である。
- エ. 十分な説明が必要である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「確認したい生活課題や臨床仮説に応じて必要な評価項目を選ぶ」に対応する説明で、判断対象「毎回全患者に同じ検査セットを行う」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「毎回全患者に同じ検査セットを行う」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「検査時間だけで選ぶ」に対応する説明で、判断対象「毎回全患者に同じ検査セットを行う」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「利用できる検査をすべて実施する」に対応する説明で、判断対象「毎回全患者に同じ検査セットを行う」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。疾患・病期・目標・環境で評価項目は変わる。判断対象は「毎回全患者に同じ検査セットを行う」。評価計画では『何を明らかにするための評価か』を先に設定し、手段を選ぶ。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「本人が不安を示しても質問を受け付けない」に対応する説明で、判断対象「評価の目的・方法・負担を説明し、本人の理解と協力を得る」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「評価の目的・方法・負担を説明し、本人の理解と協力を得る」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「結果の使い道を知らせない」に対応する説明で、判断対象「評価の目的・方法・負担を説明し、本人の理解と協力を得る」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「説明せず突然検査を始める」に対応する説明で、判断対象「評価の目的・方法・負担を説明し、本人の理解と協力を得る」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。評価も本人の理解と同意・協力を得ながら行う。判断対象は「評価の目的・方法・負担を説明し、本人の理解と協力を得る」。評価の質は検査技術だけでなく、本人が目的を理解し安心して参加できるかにも影響される。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q051

評価過程 > 評価計画・目標設定 | 標準

作業療法の短期目標として最も具体的なのはどれか。この論点で、選択肢「頑張って自立する」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 期限、条件、対象作業、達成基準が具体的に効果判定しやすい。
- イ. 何をどの程度でできれば達成が不明確である。
- ウ. 評価可能な行動目標になっていない。
- エ. 生活目標との関係や達成基準が不明確である。

OT04 Q052

評価過程 > 評価計画・目標設定 | 応用

患者は『孫の送迎を再開したい』と希望する一方、治療者は上肢機能改善を優先したいと考えている。目標設定として最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「孫の送迎に必要な移動・運転代替手段・上肢機能などを整理し、本人と段階的目標を共有する」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 本人の希望と安全性の双方を考慮する。
- イ. 本人の生活目標を起点に必要能力・環境・安全性を分析して共有目標へ落とし込む。
- ウ. 可能性と代替案を本人と検討する。
- エ. 機能目標は生活目標と結び付ける。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「2週間以内に、見守り下で病棟トイレへの移乗を3回連続して安全に行う」に対応する説明で、判断対象「頑張って自立する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「ADLを良くする」に対応する説明で、判断対象「頑張って自立する」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「頑張って自立する」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「筋力を可能な限り上げる」に対応する説明で、判断対象「頑張って自立する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。評価可能な行動目標になっていない。判断対象は「頑張って自立する」。目標は本人の優先課題と関連し、具体的・観察可能で、再評価時に達成度を判断できる形にする。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「希望だけを目標にし安全性や必要能力を評価しない」に対応する説明で、判断対象「孫の送迎に必要な移動・運転代替手段・上肢機能などを整理し、本人と段階的目標を共有する」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「孫の送迎に必要な移動・運転代替手段・上肢機能などを整理し、本人と段階的目標を共有する」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「送迎は難しいと説明せず目標から削除する」に対応する説明で、判断対象「孫の送迎に必要な移動・運転代替手段・上肢機能などを整理し、本人と段階的目標を共有する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「本人の希望を無視して上肢筋力だけを目標にする」に対応する説明で、判断対象「孫の送迎に必要な移動・運転代替手段・上肢機能などを整理し、本人と段階的目標を共有する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。本人の生活目標を起点に必要能力・環境・安全性を分析して共有目標へ落とし込む。判断対象は「孫の送迎に必要な移動・運転代替手段・上肢機能などを整理し、本人と段階的目標を共有する」。目標設定は本人中心でありながら、実現に必要な機能・活動・環境条件を具体化する臨床推論を伴う。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q053

評価過程 > ICF・全体像の把握 | 基礎

ICFを用いて全体像を把握する際に適切なのはどれか。この論点で、選択肢「環境因子を除外する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 環境は活動・参加を促進・阻害する重要な要素である。
- イ. ICFでは生活機能の肯定的側面と障害、環境因子を含めて捉える。
- ウ. 健康状態だけで生活機能を説明しない。
- エ. 強みや可能性も支援計画に重要である。

答え・4肢解説

正答：ア

- ア：正しい。これは判断対象「環境因子を除外する」が誤答となる理由を直接説明している。
- イ：誤り。これは別の選択肢「障害や困難だけでなく、保たれている能力や促進因子も整理する」に対応する説明で、判断対象「環境因子を除外する」の直接の根拠ではない。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「診断名だけを記載する」に対応する説明で、判断対象「環境因子を除外する」の直接の根拠ではない。
- エ：誤り。これは別の選択肢「できないことだけを列挙する」に対応する説明で、判断対象「環境因子を除外する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。環境は活動・参加を促進・阻害する重要な要素である。判断対象は「環境因子を除外する」。全体像の把握では問題点だけでなく、利用できる能力・支援・環境資源を明らかにする。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q054

評価過程 > ICF・全体像の把握 | 標準

脳卒中患者が自宅で一人で更衣できるが、外出を避けて地域の趣味サークルへ参加できていない。ICFで『趣味サークルへ参加できない』問題は主にどれか。この論点で、選択肢「参加」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 個人因子だけではない。
- イ. 地域の役割や社会生活への関与は参加に位置づけられる。
- ウ. 運動麻痺などは心身機能だが、サークル参加そのものは参加である。
- エ. 診断名とは異なる。

答え・4肢解説

正答：イ

- ア：誤り。これは別の選択肢「個人因子だけ」に対応する説明で、判断対象「参加」の直接の根拠ではない。
- イ：正しい。これは判断対象「参加」が正答となる理由を直接説明している。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「心身機能・身体構造だけ」に対応する説明で、判断対象「参加」の直接の根拠ではない。
- エ：誤り。これは別の選択肢「健康状態だけ」に対応する説明で、判断対象「参加」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。地域の役割や社会生活への関与は参加に位置づけられる。判断対象は「参加」。ICFでは作業課題を『できるか』という活動と、実生活・社会で『関わっているか』という参加の両面でみる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q055

評価過程 > ICF・全体像の把握 | 標準

車椅子利用者が自宅玄関の段差のため単独外出できない。最も適切な評価はどれか。この論点で、選択肢「外出困難を診断名だけで説明する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 作業療法では環境評価が重要である。
- イ. 段差そのものは身体機能ではない。
- ウ. 同じ疾患でも環境条件により参加状況は異なる。
- エ. 物理環境の段差は外出を阻害する環境因子となる。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「環境は評価対象外とする」に対応する説明で、判断対象「外出困難を診断名だけで説明する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「段差は本人の筋力低下として扱う」に対応する説明で、判断対象「外出困難を診断名だけで説明する」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「外出困難を診断名だけで説明する」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「玄関段差を活動・参加を妨げる環境因子として扱う」に対応する説明で、判断対象「外出困難を診断名だけで説明する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。同じ疾患でも環境条件により参加状況は異なる。判断対象は「外出困難を診断名だけで説明する」。全体像を把握するには、人の機能だけでなく住環境・支援者・制度・道具などの環境を評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q056

評価過程 > ICF・全体像の把握 | 応用

右上肢筋力は軽度低下だけだが、料理では手順混乱と注意散漫が強く、家族が過介助している。全体像の把握として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「身体機能、認知機能、作業手順、家族の関わりを相互に関連づけて整理する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 過介助は遂行機会や自立度へ影響し得る。
- イ. 筋力検査だけでは料理遂行を評価できない。
- ウ. 実際の作業遂行は複数の個人・作業・環境要因の相互作用で決まる。
- エ. 認知や環境要因も影響している。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「家族の関わりは評価しない」に対応する説明で、判断対象「身体機能、認知機能、作業手順、家族の関わりを相互に関連づけて整理する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「料理能力はMMTだけで判断する」に対応する説明で、判断対象「身体機能、認知機能、作業手順、家族の関わりを相互に関連づけて整理する」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「身体機能、認知機能、作業手順、家族の関わりを相互に関連づけて整理する」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「筋力低下だけが全ての原因と断定する」に対応する説明で、判断対象「身体機能、認知機能、作業手順、家族の関わりを相互に関連づけて整理する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。実際の作業遂行は複数の個人・作業・環境要因の相互作用で決まる。判断対象は「身体機能、認知機能、作業手順、家族の関わりを相互に関連づけて整理する」。全体像とは検査結果の一覧ではなく、生活上の問題を説明する要因関係の仮説を構成することである。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q057

評価過程 > 評価結果の統合・臨床推論 | 標準

注意検査では正常範囲だが、実際の調理では火を消し忘れる。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「標準化検査が正常なので観察結果を無視する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 標準化検査と生活観察を相補的に用いる。
- イ. 認知要求、環境、疲労などを検討する。
- ウ. 実際の作業遂行は重要な評価情報である。
- エ. 検査と実生活で要求される能力は異なるため、不一致の原因を追加評価する。

OT04 Q058

評価過程 > 評価結果の統合・臨床推論 | 標準

評価で軽度の手指巧緻性低下、重度の転倒リスク、買い物困難が明らかになった。退院が3日後に迫っている。優先順位として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「安全な移動と退院後生活に直結する課題を優先する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 検査値の大小だけで優先度は決まらない。
- イ. 時間的制約は介入計画に影響する。
- ウ. 安全性、緊急性、本人の目標、退院後への影響を踏まえて優先順位を決める。
- エ. 臨床的な重要度に差がある。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「検査を一切使わない」に対応する説明で、判断対象「標準化検査が正常なので観察結果を無視する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「調理の失敗は必ず本人のやる気の問題とする」に対応する説明で、判断対象「標準化検査が正常なので観察結果を無視する」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「標準化検査が正常なので観察結果を無視する」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「検査結果だけで安全と判断せず、実生活課題で必要な注意配分や遂行機能を追加評価する」に対応する説明で、判断対象「標準化検査が正常なので観察結果を無視する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。実際の作業遂行は重要な評価情報である。判断対象は「標準化検査が正常なので観察結果を無視する」。臨床推論では検査値そのものより、その結果が実生活の遂行をどの程度説明するかを検討する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「数値上最も小さい検査点だけを優先する」に対応する説明で、判断対象「安全な移動と退院後生活に直結する課題を優先する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「退院予定を考慮しない」に対応する説明で、判断対象「安全な移動と退院後生活に直結する課題を優先する」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「安全な移動と退院後生活に直結する課題を優先する」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「全課題を同じ時間配分で扱う」に対応する説明で、判断対象「安全な移動と退院後生活に直結する課題を優先する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。安全性、緊急性、本人の目標、退院後への影響を踏まえて優先順位を決める。判断対象は「安全な移動と退院後生活に直結する課題を優先する」。問題リストは列挙するだけでなく、何から介入すべきかを理由とともに決める。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q059

評価過程 > 評価結果の統合・臨床推論 | 応用

更衣に時間がかかる患者について『肩可動域制限が主因』と仮説を立てたが、ROM改善後も時間短縮しなかった。次に最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「ROM訓練だけを永久に続ける」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 目標ではなく介入方法・仮説を見直す。
- イ. 効果が乏しい理由を分析する。
- ウ. 介入結果が仮説を支持しない場合は別の説明可能性を検討する。
- エ. 臨床仮説は新しい情報に応じて修正する。

OT04 Q060

評価過程 > 評価結果の統合・臨床推論 | 基礎

評価結果を本人へ説明する方法として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「強みと課題を生活目標に結び付けて説明し、次の介入方針と一緒に検討する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 結果を理解可能な言葉で共有し、本人の価値観と結び付けて意思決定を支援する。
- イ. 理解度に合わせて説明する必要がある。
- ウ. 本人中心の目標設定には評価結果の共有が重要である。
- エ. 保たれた機能や促進因子も伝える。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「本人の更衣目標を削除する」に対応する説明で、判断対象「ROM訓練だけを永久に続ける」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「ROM訓練だけを永久に続ける」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「仮説を修正し、注意・手順・衣服条件など他要因を評価する」に対応する説明で、判断対象「ROM訓練だけを永久に続ける」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「最初の仮説が必ず正しいとして評価を終える」に対応する説明で、判断対象「ROM訓練だけを永久に続ける」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。効果が乏しい理由を分析する。判断対象は「ROM訓練だけを永久に続ける」。クリニカルリーズニングでは仮説→評価→介入→結果という検証を繰り返して問題理解を深める。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「強みと課題を生活目標に結び付けて説明し、次の介入方針と一緒に検討する」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「専門用語だけで一方的に説明する」に対応する説明で、判断対象「強みと課題を生活目標に結び付けて説明し、次の介入方針と一緒に検討する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「結果を本人に知らせず治療者だけで目標を決める」に対応する説明で、判断対象「強みと課題を生活目標に結び付けて説明し、次の介入方針と一緒に検討する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「悪い点だけを伝える」に対応する説明で、判断対象「強みと課題を生活目標に結び付けて説明し、次の介入方針と一緒に検討する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。結果を理解可能な言葉で共有し、本人の価値観と結び付けて意思決定を支援する。判断対象は「強みと課題を生活目標に結び付けて説明し、次の介入方針と一緒に検討する」。評価の最終目的は点数を得ることではなく、本人とチームが生活上の課題と可能性を理解し、次の行動を決めることにある。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q061

身体機能評価 > バイタル・全身状態 | 基礎

作業療法開始前の全身状態確認で、バイタルサインとして基本的に確認する項目はどれか。
この論点で、選択肢「関節可動域だけ」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 握力は筋力評価である。
- イ. 知能指数は認知・心理評価に関連する。
- ウ. 血圧、脈拍、呼吸数、体温などは全身状態を把握する基本的指標である。
- エ. ROMは身体機能評価だがバイタルサインではない。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「握力だけ」に対応する説明で、判断対象「関節可動域だけ」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「知能指数だけ」に対応する説明で、判断対象「関節可動域だけ」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「血圧・脈拍・呼吸数・体温」に対応する説明で、判断対象「関節可動域だけ」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「関節可動域だけ」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。ROMは身体機能評価だがバイタルサインではない。判断対象は「関節可動域だけ」。作業療法では活動前後のバイタル変化と自覚症状を合わせて安全性を判断する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q062

身体機能評価 > バイタル・全身状態 | 標準

臥位では安定していた患者が立位直後にめまいを訴え、血圧が低下した。評価として最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「体位変換前後の血圧・脈拍と症状を確認する」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 握力では循環反応を評価できない。
- イ. 起立性循環反応は体位変換前後の血圧・脈拍・自覚症状で評価する。
- ウ. 症候性低血圧が疑われる場合は安全確保が優先される。
- エ. ROMだけでは説明できない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「握力だけを再測定する」に対応する説明で、判断対象「体位変換前後の血圧・脈拍と症状を確認する」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「体位変換前後の血圧・脈拍と症状を確認する」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「症状があっても立位を継続する」に対応する説明で、判断対象「体位変換前後の血圧・脈拍と症状を確認する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「ROM検査だけで原因を判断する」に対応する説明で、判断対象「体位変換前後の血圧・脈拍と症状を確認する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。起立性循環反応は体位変換前後の血圧・脈拍・自覚症状で評価する。判断対象は「体位変換前後の血圧・脈拍と症状を確認する」。全身状態評価では数値だけでなく、めまい・冷汗・動悸などの症状を同時に確認する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q063

身体機能評価 > バイタル・全身状態 | 標準

パルスオキシメータのSpO2値が急に低下したが、患者に呼吸苦はなく手指が冷たい。最初に確認すべきこととして適切なのはどれか。この論点で、選択肢「測定器を見ずに訓練を続ける」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 末梢循環不良や装着状態などで測定誤差が生じ得るため、臨床症状と測定条件を確認する。
- イ. 握力はSpO2測定誤差の直接原因ではない。
- ウ. 値だけでなく患者状態と測定の妥当性を確認する。
- エ. 異常値は安全管理上確認が必要である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「プローブ装着や末梢循環など測定条件を確認する」に対応する説明で、判断対象「測定器を見ずに訓練を続ける」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「握力低下だけを原因とする」に対応する説明で、判断対象「測定器を見ずに訓練を続ける」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「直ちに数値だけで重症呼吸不全と断定する」に対応する説明で、判断対象「測定器を見ずに訓練を続ける」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「測定器を見ずに訓練を続ける」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。異常値は安全管理上確認が必要である。判断対象は「測定器を見ずに訓練を続ける」。生体情報は機器の数値を絶対視せず、症状・観察・測定条件と統合して判断する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q064

身体機能評価 > バイタル・全身状態 | 応用

作業中に新たな胸痛、冷汗、息苦しさ、意識のぼんやりが出現した。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「活動を中止しバイタルを確認して速やかに医療スタッフへ報告する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 軽負荷でも重大な病態の可能性を除外していない。
- イ. 身体的急変を評価せず心理要因だけと判断しない。
- ウ. 急変徴候があるため、活動継続より安全確保と医療評価を優先する。
- エ. 予定より患者安全を優先する。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「課題を簡単にしてそのまま続ける」に対応する説明で、判断対象「活動を中止しバイタルを確認して速やかに医療スタッフへ報告する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「症状を心理的要因と決めつける」に対応する説明で、判断対象「活動を中止しバイタルを確認して速やかに医療スタッフへ報告する」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「活動を中止しバイタルを確認して速やかに医療スタッフへ報告する」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「予定時間まで必ず実施する」に対応する説明で、判断対象「活動を中止しバイタルを確認して速やかに医療スタッフへ報告する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。急変徴候があるため、活動継続より安全確保と医療評価を優先する。判断対象は「活動を中止しバイタルを確認して速やかに医療スタッフへ報告する」。作業療法士は活動耐容能を評価しながら、急変時には訓練を中止して適切な連携を行う。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q065

身体機能評価 > ROM・MMT | 基礎

他動関節可動域 PROM の説明として正しいのはどれか。この論点で、選択肢「痛みを必ず無視して最大まで動かす」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. PROMは外力によって得られる関節可動域を評価する。
- イ. これは自動ROMの説明である。
- ウ. 疼痛や禁忌を考慮して安全に測定する。
- エ. ROMは関節運動範囲の評価である。

OT04 Q066

身体機能評価 > ROM・MMT | 標準

肩関節屈曲は自動で80°までだが、他動では160°まで疼痛なく動く。最も考えやすいのはどれか。この論点で、選択肢「筋力低下や運動制御障害など自動運動側の問題を考える」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. PROMが保たれAROMが小さい場合、筋力や運動制御などを評価する必要がある。
- イ. 骨性強直ではPROMも大きく制限される。
- ウ. 強い拘縮ならPROMも制限されやすい。
- エ. 両者の比較に臨床的意味がある。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「被検者が筋力を発揮せず、検者など外力で関節を動かして測定する」に対応する説明で、判断対象「痛みを必ず無視して最大まで動かす」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「被検者が自力で動かせた範囲だけを測定する」に対応する説明で、判断対象「痛みを必ず無視して最大まで動かす」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「痛みを必ず無視して最大まで動かす」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「筋力だけを測定する」に対応する説明で、判断対象「痛みを必ず無視して最大まで動かす」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。疼痛や禁忌を考慮して安全に測定する。判断対象は「痛みを必ず無視して最大まで動かす」。自動ROMと他動ROMの差は、筋力・疼痛・運動制御・関節構造などを考える手掛かりになる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「筋力低下や運動制御障害など自動運動側の問題を考える」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「必ず骨性強直と判断する」に対応する説明で、判断対象「筋力低下や運動制御障害など自動運動側の問題を考える」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「関節拘縮だけで説明する」に対応する説明で、判断対象「筋力低下や運動制御障害など自動運動側の問題を考える」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「他動ROM測定は不要と考える」に対応する説明で、判断対象「筋力低下や運動制御障害など自動運動側の問題を考える」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。PROMが保たれAROMが小さい場合、筋力や運動制御などを評価する必要がある。判断対象は「筋力低下や運動制御障害など自動運動側の問題を考える」。ROM評価では可動角度だけでなく、自動・他動差、疼痛、終末感、代償運動を観察する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q067

身体機能評価 > ROM・MMT | 標準

肩関節屈曲ROMを測定するとき、腰椎伸展が大きく出現した。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「代償を記録せず正常とする」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 目的が異なる評価である。
- イ. 代償は測定値を過大評価する。
- ウ. 代償運動を対象関節ROMへ含めない。
- エ. 対象関節以外の代償をできるだけ制御して測定する。

OT04 Q068

身体機能評価 > ROM・MMT | 基礎

徒手筋力検査 MMT で、重力に抗して全可動域を動かせるが抵抗には耐えられない場合の段階はどれか。この論点で、選択肢「3」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. MMT3は重力に抗して全可動域を遂行できる状態である。
- イ. MMT2は重力を除いた条件で全可動域を動かせる段階である。
- ウ. MMT5は正常と判断される強い抵抗に耐えられる。
- エ. MMT4は重力に抗した全可動域に加え、ある程度の抵抗に耐えられる。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「測定を握力評価に変更する」に対応する説明で、判断対象「代償を記録せず正常とする」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「代償を記録せず正常とする」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「腰椎伸展を肩屈曲角度に加える」に対応する説明で、判断対象「代償を記録せず正常とする」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「体幹代償を抑えて肩関節運動として再測定する」に対応する説明で、判断対象「代償を記録せず正常とする」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。代償は測定値を過大評価する。判断対象は「代償を記録せず正常とする」。標準化された肢位・軸・固定を用いることでROM測定の再現性を高める。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「3」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「2」に対応する説明で、判断対象「3」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「5」に対応する説明で、判断対象「3」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「4」に対応する説明で、判断対象「3」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。MMT3は重力に抗して全可動域を遂行できる状態である。判断対象は「3」。MMTは肢位、重力、可動域、抵抗を組み合わせで段階づけする。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q069

身体機能評価 > ROM・MMT | 標準

MMT2を確認する際に重力を除いた肢位を用いる主な理由はどれか。この論点で、選択肢「反射だけを評価するため」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 疼痛評価ではない。
- イ. 重力を除去すると、重力に抗せない筋力でも関節運動を評価できる。
- ウ. 筋力評価である。
- エ. MMT2では最大抵抗を加えない。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「疼痛閾値だけを測るため」に対応する説明で、判断対象「反射だけを評価するため」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「重力負荷を減らし、筋が関節を全可動域動かせるか確認するため」に対応する説明で、判断対象「反射だけを評価するため」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「反射だけを評価するため」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「最大抵抗を加えるため」に対応する説明で、判断対象「反射だけを評価するため」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。筋力評価である。判断対象は「反射だけを評価するため」。MMTでは筋力が低い場合に測定肢位を変更し、重力条件を調整する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q070

身体機能評価 > ROM・MMT | 標準

肩外転MMTで肩甲帯を大きく挙上して腕を上げている。評価として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「代償運動を抑え、目的筋群による外転能力を再評価する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 異なる運動である。
- イ. ROMと筋力は別に評価する。
- ウ. 僧帽筋などによる代償を見分けて目的運動の筋力を評価する。
- エ. 代償があると目的筋力を過大評価する可能性がある。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「肩甲帯挙上は外転筋力と同義とする」に対応する説明で、判断対象「代償運動を抑え、目的筋群による外転能力を再評価する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「ROMだけ測って筋力評価を終了する」に対応する説明で、判断対象「代償運動を抑え、目的筋群による外転能力を再評価する」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「代償運動を抑え、目的筋群による外転能力を再評価する」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「代償を含めて正常筋力とする」に対応する説明で、判断対象「代償運動を抑え、目的筋群による外転能力を再評価する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。僧帽筋などによる代償を見分けて目的運動の筋力を評価する。判断対象は「代償運動を抑え、目的筋群による外転能力を再評価する」。MMTでは運動方向だけでなく、固定、代償、疼痛、協力状態を観察する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q071

身体機能評価 > ROM・MMT | 応用

膝伸展に20°の屈曲拘縮がある患者の膝伸展MMTを解釈する際に最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「筋力評価は絶対にできないとする」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 可動域制限があると標準的MMT条件を満たしにくいいため、測定条件を明示して解釈する。
- イ. 関節制限が筋力測定へ影響する。
- ウ. 状況に応じた評価は可能だが条件を明確にする必要がある。
- エ. ROM情報は解釈に不可欠である。

答え・4肢解説

正答：ウ

- ア：誤り。これは別の選択肢「利用可能な可動域と拘縮の影響を記録し、標準的な全可動域条件との差を考慮する」に対応する説明で、判断対象「筋力評価は絶対にできないとする」の直接の根拠ではない。
- イ：誤り。これは別の選択肢「拘縮があっても通常のMMT値と完全に同じ意味とする」に対応する説明で、判断対象「筋力評価は絶対にできないとする」の直接の根拠ではない。
- ウ：正しい。これは判断対象「筋力評価は絶対にできないとする」が誤答となる理由を直接説明している。
- エ：誤り。これは別の選択肢「関節可動域を記録しない」に対応する説明で、判断対象「筋力評価は絶対にできないとする」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。状況に応じた評価は可能だが条件を明確にする必要がある。判断対象は「筋力評価は絶対にできないとする」。MMTは数値だけでなく、測定条件と運動範囲を合わせて記録する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q072

身体機能評価 > ROM・MMT | 応用

腱板損傷後の患者で、抵抗を加えると強い肩痛が出現して力を発揮できない。MMT結果の解釈として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「疼痛抑制による出力低下を考慮し、筋力そのものと区別して解釈する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 疼痛増悪や損傷リスクを考慮する。
- イ. MMTだけで組織損傷程度を確定できない。
- ウ. 疼痛は随意筋出力を低下させるため、純粋な筋力低下と区別する必要がある。
- エ. 結果解釈に重要な条件である。

答え・4肢解説

正答：ウ

- ア：誤り。これは別の選択肢「疼痛があっても最大抵抗を続ける」に対応する説明で、判断対象「疼痛抑制による出力低下を考慮し、筋力そのものと区別して解釈する」の直接の根拠ではない。
- イ：誤り。これは別の選択肢「低い値は必ず筋断裂の程度を直接示す」に対応する説明で、判断対象「疼痛抑制による出力低下を考慮し、筋力そのものと区別して解釈する」の直接の根拠ではない。
- ウ：正しい。これは判断対象「疼痛抑制による出力低下を考慮し、筋力そのものと区別して解釈する」が正答となる理由を直接説明している。
- エ：誤り。これは別の選択肢「痛みの有無は記録しない」に対応する説明で、判断対象「疼痛抑制による出力低下を考慮し、筋力そのものと区別して解釈する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。疼痛は随意筋出力を低下させるため、純粋な筋力低下と区別する必要がある。判断対象は「疼痛抑制による出力低下を考慮し、筋力そのものと区別して解釈する」。筋力評価では神経・筋機能だけでなく、疼痛、恐怖、理解、疲労などの影響を考える。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q073

身体機能評価 > 反射・筋緊張・協調性 | 基礎

深部腱反射が著明に亢進している場合に考えやすいのはどれか。この論点で、選択肢「骨折だけ」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 筋萎縮だけでは反射亢進を説明しない。
- イ. 骨折自体は代表的原因ではない。
- ウ. 錐体路など上位運動ニューロン障害では腱反射亢進がみられることがある。
- エ. 末梢神経障害では反射低下・消失を生じやすい。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「筋萎縮だけ」に対応する説明で、判断対象「骨折だけ」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「骨折だけ」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「上位運動ニューロン障害」に対応する説明で、判断対象「骨折だけ」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「末梢神経完全断裂だけ」に対応する説明で、判断対象「骨折だけ」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。骨折自体は代表的原因ではない。判断対象は「骨折だけ」。反射は左右差、クローヌス、筋緊張、筋力など他の神経所見と組み合わせて解釈する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q074

身体機能評価 > 反射・筋緊張・協調性 | 標準

足関節を急速に背屈した際に、規則的な底背屈が反復した。最も適切な所見名はどれか。この論点で、選択肢「クローヌス」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 振戦は一定のリズムをもつ不随意運動だが誘発機序が異なる。
- イ. アテトーゼはゆっくりした捻転性不随意運動である。
- ウ. 急速伸張後に反復性筋収縮が生じる現象をクローヌスという。
- エ. 失行は運動遂行の高次脳機能障害である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「振戦」に対応する説明で、判断対象「クローヌス」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「アテトーゼ」に対応する説明で、判断対象「クローヌス」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「クローヌス」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「失行」に対応する説明で、判断対象「クローヌス」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。急速伸張後に反復性筋収縮が生じる現象をクローヌスという。判断対象は「クローヌス」。持続性クローヌスは痙縮など上位運動ニューロン障害を示す手掛かりとなる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q075

身体機能評価 > 反射・筋緊張・協調性 | 標準

痙縮 spasticity の特徴として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「関節をゆっくり動かすほど必ず抵抗が増える」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 速度依存性が重要な特徴である。
- イ. 痙縮は速度依存性の筋緊張亢進として理解される。
- ウ. 典型的には速い伸張で抵抗が増える。
- エ. 上位運動ニューロン障害に関連する。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「筋緊張は速度と無関係で一定である」に対応する説明で、判断対象「関節をゆっくり動かすほど必ず抵抗が増える」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「他動運動の速度が速いほど伸張反射による抵抗が増えやすい」に対応する説明で、判断対象「関節をゆっくり動かすほど必ず抵抗が増える」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「関節をゆっくり動かすほど必ず抵抗が増える」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「末梢神経断裂だけで生じる」に対応する説明で、判断対象「関節をゆっくり動かすほど必ず抵抗が増える」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。典型的には速い伸張で抵抗が増える。判断対象は「関節をゆっくり動かすほど必ず抵抗が増える」。筋緊張評価では速度、関節角度、疼痛、拘縮などを分けて観察する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q076

身体機能評価 > 反射・筋緊張・協調性 | 基礎

指鼻試験で目標を通り過ぎたり届かなかったりする所見はどれか。この論点で、選択肢「測定障害」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 関節可動域制限である。
- イ. 空間性注意障害である。
- ウ. 距離を適切に調節できない測定障害は小脳性運動失調でみられる。
- エ. 言語機能障害である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「関節拘縮」に対応する説明で、判断対象「測定障害」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「半側空間無視」に対応する説明で、判断対象「測定障害」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「測定障害」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「失語」に対応する説明で、判断対象「測定障害」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。距離を適切に調節できない測定障害は小脳性運動失調でみられる。判断対象は「測定障害」。協調性評価では測定障害、企図振戦、反復拮抗運動障害などを観察する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q077

身体機能評価 > 反射・筋緊張・協調性 | 標準

前腕の回内・回外を速く反復する課題が不規則で遅くなる。最も考えやすい所見はどれか。
この論点で、選択肢「下垂手」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 拮抗する運動を素早く交互に繰り返せない状態は反復拮抗運動障害である。
- イ. 触覚失認は触って物品を同定できない高次感覚障害である。
- ウ. 言語理解障害ではない。
- エ. 橈骨神経障害などでみられる。

答え・4肢解説

正答：エ

- ア：誤り。これは別の選択肢「反復拮抗運動障害」に対応する説明で、判断対象「下垂手」の直接の根拠ではない。
- イ：誤り。これは別の選択肢「触覚失認」に対応する説明で、判断対象「下垂手」の直接の根拠ではない。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「感覚性失語」に対応する説明で、判断対象「下垂手」の直接の根拠ではない。
- エ：正しい。これは判断対象「下垂手」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。橈骨神経障害などでみられる。判断対象は「下垂手」。小脳機能評価では運動の速度だけでなくリズム、正確性、分解運動を観察する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q078

身体機能評価 > 反射・筋緊張・協調性 | 応用

肘伸展時の抵抗が、速く動かすと強く、ゆっくり動かすと小さい。最も考えやすいのはどれか。
この論点で、選択肢「痙縮の影響」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 筋力低下だけでは他動抵抗増加を説明しない。
- イ. 速度依存性の抵抗増加は痙縮を示唆する。
- ウ. 痙縮と拘縮が併存することもある。
- エ. 構造的拘縮では速度だけで抵抗が大きく変化しにくい。

答え・4肢解説

正答：イ

- ア：誤り。これは別の選択肢「筋力低下だけ」に対応する説明で、判断対象「痙縮の影響」の直接の根拠ではない。
- イ：正しい。これは判断対象「痙縮の影響」が正答となる理由を直接説明している。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「関節可動域制限が存在しない証拠」に対応する説明で、判断対象「痙縮の影響」の直接の根拠ではない。
- エ：誤り。これは別の選択肢「固定した骨性拘縮だけ」に対応する説明で、判断対象「痙縮の影響」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。速度依存性の抵抗増加は痙縮を示唆する。判断対象は「痙縮の影響」。筋緊張評価では神経性抵抗と軟部組織短縮による機械的抵抗を区別する視点が重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q079

身体機能評価 > 感覚・疼痛 | 基礎

深部感覚に含まれるのはどれか。この論点で、選択肢「温度覚」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 触覚は表在感覚である。
- イ. 関節位置覚や運動覚は深部感覚に含まれる。
- ウ. 痛覚も表在感覚に含まれる。
- エ. 温度覚は表在感覚である。

答え・4肢解説

正答：エ

- ア：誤り。これは別の選択肢「触覚」に対応する説明で、判断対象「温度覚」の直接の根拠ではない。
- イ：誤り。これは別の選択肢「関節位置覚」に対応する説明で、判断対象「温度覚」の直接の根拠ではない。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「痛覚」に対応する説明で、判断対象「温度覚」の直接の根拠ではない。
- エ：正しい。これは判断対象「温度覚」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。温度覚は表在感覚である。判断対象は「温度覚」。体性感覚評価では表在感覚、深部感覚、複合感覚を区別して障害部位を推定する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q080

身体機能評価 > 感覚・疼痛 | 標準

二点識別覚の評価で主に必要なものはどれか。この論点で、選択肢「末梢感覚入力に加えて大脳皮質での識別処理」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 聴覚検査ではない。
- イ. 筋力評価ではない。
- ウ. 二点識別には末梢感覚経路と皮質での空間識別処理が必要である。
- エ. 視覚を遮断して行うことも多い。

答え・4肢解説

正答：ウ

- ア：誤り。これは別の選択肢「聴力だけ」に対応する説明で、判断対象「末梢感覚入力に加えて大脳皮質での識別処理」の直接の根拠ではない。
- イ：誤り。これは別の選択肢「筋力だけ」に対応する説明で、判断対象「末梢感覚入力に加えて大脳皮質での識別処理」の直接の根拠ではない。
- ウ：正しい。これは判断対象「末梢感覚入力に加えて大脳皮質での識別処理」が正答となる理由を直接説明している。
- エ：誤り。これは別の選択肢「視力だけ」に対応する説明で、判断対象「末梢感覚入力に加えて大脳皮質での識別処理」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。二点識別には末梢感覚経路と皮質での空間識別処理が必要である。判断対象は「末梢感覚入力に加えて大脳皮質での識別処理」。複合感覚は基本的感覚が保たれているか確認した上で評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q081

身体機能評価 > 感覚・疼痛 | 標準

閉眼すると手指の位置が分からないが、開眼すると動作が改善する。最も考えやすいのはどれか。この論点で、選択肢「聴覚障害だけ」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 位置覚低下があると視覚情報を利用して肢位を補正することがある。
- イ. 聴覚障害では説明しにくい。
- ウ. 筋力だけでは開眼・閉眼差を説明しにくい。
- エ. 言語障害ではない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「深部感覚低下を視覚で代償している」に対応する説明で、判断対象「聴覚障害だけ」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「聴覚障害だけ」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「筋力低下だけ」に対応する説明で、判断対象「聴覚障害だけ」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「失語だけ」に対応する説明で、判断対象「聴覚障害だけ」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。聴覚障害では説明しにくい。判断対象は「聴覚障害だけ」。感覚障害の評価では視覚の有無で動作がどう変わるかも重要な手掛かりとなる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q082

身体機能評価 > 感覚・疼痛 | 基礎

Numeric Rating Scale NRS による疼痛評価として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「本人が痛みの強さを数値で自己評価する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. ROM測定ではない。
- イ. 行動観察尺度とは異なる。
- ウ. 疼痛強度を測るもので原因診断は別途必要である。
- エ. NRSは本人が疼痛強度を数値で表す自己評価尺度である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「関節可動域を角度で測る」に対応する説明で、判断対象「本人が痛みの強さを数値で自己評価する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「検者が表情だけで点数を決める」に対応する説明で、判断対象「本人が痛みの強さを数値で自己評価する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「疼痛の原因疾患を確定する」に対応する説明で、判断対象「本人が痛みの強さを数値で自己評価する」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「本人が痛みの強さを数値で自己評価する」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。NRSは本人が疼痛強度を数値で表す自己評価尺度である。判断対象は「本人が痛みの強さを数値で自己評価する」。痛みは主観的経験であり、強度だけでなく部位、性質、誘発要因、生活への影響も評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q083

身体機能評価 > 感覚・疼痛 | 応用

衣服が軽く触れただけでも強い痛みを感じる。最も適切な用語はどれか。この論点で、選択肢「失認」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 協調運動障害である。
- イ. 対象を認識できない高次脳機能障害である。
- ウ. 麻酔は感覚消失を指す。
- エ. 通常は痛みを生じない刺激で痛みを感じる現象をアロディニアという。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「運動失調」に対応する説明で、判断対象「失認」の直接の根拠ではない。
イ：正しい。これは判断対象「失認」が誤答となる理由を直接説明している。
ウ：誤り。これは別の選択肢「麻酔」に対応する説明で、判断対象「失認」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「アロディニア」に対応する説明で、判断対象「失認」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。対象を認識できない高次脳機能障害である。判断対象は「失認」。疼痛評価では刺激と反応の関係を確認し、神経障害性疼痛や感作の可能性を考える。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q084

身体機能評価 > 手指・上肢機能 | 基礎

握力を経時的に比較する際に最も重要なものはどれか。この論点で、選択肢「測定肢位や握り幅、測定手順をできるだけ一定にする」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 左右差は重要な情報である。
- イ. 姿勢差が測定値へ影響する。
- ウ. 疼痛は出力を低下させる可能性があるため記録する。
- エ. 測定条件を統一することで再現性と比較可能性が高まる。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「左右を区別しない」に対応する説明で、判断対象「測定肢位や握り幅、測定手順をできるだけ一定にする」の直接の根拠ではない。
イ：誤り。これは別の選択肢「毎回異なる姿勢で測る」に対応する説明で、判断対象「測定肢位や握り幅、測定手順をできるだけ一定にする」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「痛みがあっても無視する」に対応する説明で、判断対象「測定肢位や握り幅、測定手順をできるだけ一定にする」の直接の根拠ではない。
エ：正しい。これは判断対象「測定肢位や握り幅、測定手順をできるだけ一定にする」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。測定条件を統一することで再現性と比較可能性が高まる。判断対象は「測定肢位や握り幅、測定手順をできるだけ一定にする」。筋力測定では機器だけでなく姿勢・指示・試行回数などの条件統一が重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q085

身体機能評価 > 手指・上肢機能 | 標準

鍵をつまんで回すときに用いられやすいピンチはどれか。この論点で、選択肢「指尖つまみだけ」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 指を鉤状にして保持する把持である。
- イ. 指尖同士でつまむ形とは異なる。
- ウ. 母指腹と示指側面で挟む側方つまみは鍵操作などに用いられる。
- エ. 球状物を包む把持である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「鉤握り」に対応する説明で、判断対象「指尖つまみだけ」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「指尖つまみだけ」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「側方つまみ key pinch」に対応する説明で、判断対象「指尖つまみだけ」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「球状把持」に対応する説明で、判断対象「指尖つまみだけ」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。指尖同士でつまむ形とは異なる。判断対象は「指尖つまみだけ」。ピンチ評価は単なる筋力だけでなく、実際の道具操作との関連を考える。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q086

身体機能評価 > 手指・上肢機能 | 標準

ペグを決められた位置へ素早く正確に移す課題で主に評価できるのはどれか。この論点で、選択肢「上肢・手指の巧緻性と操作速度」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 呼吸機能検査ではない。
- イ. 下肢筋力検査ではない。
- ウ. 視覚も影響するが目的は視野検査だけではない。
- エ. ペグ課題は把持・到達・操作の速さや正確性をみる巧緻性評価として用いられる。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「呼吸機能」に対応する説明で、判断対象「上肢・手指の巧緻性と操作速度」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「最大下肢筋力」に対応する説明で、判断対象「上肢・手指の巧緻性と操作速度」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「視野だけ」に対応する説明で、判断対象「上肢・手指の巧緻性と操作速度」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「上肢・手指の巧緻性と操作速度」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。ペグ課題は把持・到達・操作の速さや正確性をみる巧緻性評価として用いられる。判断対象は「上肢・手指の巧緻性と操作速度」。巧緻性検査は結果だけでなく、落下、把持方法、代償動作、疲労など質的所見も観察する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q087

身体機能評価 > 手指・上肢機能 | 標準

脳卒中患者の上肢について、肩・肘・手指の運動だけでなく実際の物品操作能力も把握したい。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「握力だけで全て判断する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 握力は一要素にすぎない。
- イ. 実際の作業遂行を直接反映しないことがある。
- ウ. 物品操作を含む総合評価は実用的な上肢機能を把握するのに役立つ。
- エ. ROMだけでは巧緻性・協調性・速度を評価できない。

OT04 Q088

身体機能評価 > 手指・上肢機能 | 応用

ベグ課題の成績が低い患者に強い肩痛と注意障害もある。最も適切な解釈はどれか。この論点で、選択肢「手指巧緻性だけでなく疼痛や注意の影響も考えて追加評価する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 単一要因へ還元しない。
- イ. 実行速度や正確性は運動・感覚・疼痛・注意など複数要因の影響を受ける。
- ウ. 疼痛は重要な測定条件である。
- エ. 注意障害は手順や速度へ影響し得る。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「握力だけで全て判断する」が誤答となる理由を直接説明している。
イ：誤り。これは別の選択肢「画像所見だけで作業能力を決める」に対応する説明で、判断対象「握力だけで全て判断する」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「単一筋のMMTだけでなく、物品操作を含む上肢総合機能評価を追加する」に対応する説明で、判断対象「握力だけで全て判断する」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「ROMだけで十分とする」に対応する説明で、判断対象「握力だけで全て判断する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。握力は一要素にすぎない。判断対象は「握力だけで全て判断する」。上肢機能評価では要素的機能と実用的な物品操作の双方を組み合わせる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「成績低下は必ず手指筋力低下だけが原因とする」に対応する説明で、判断対象「手指巧緻性だけでなく疼痛や注意の影響も考えて追加評価する」の直接の根拠ではない。
イ：正しい。これは判断対象「手指巧緻性だけでなく疼痛や注意の影響も考えて追加評価する」が正答となる理由を直接説明している。
ウ：誤り。これは別の選択肢「疼痛を記録しない」に対応する説明で、判断対象「手指巧緻性だけでなく疼痛や注意の影響も考えて追加評価する」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「注意機能は手作業に影響しないと考える」に対応する説明で、判断対象「手指巧緻性だけでなく疼痛や注意の影響も考えて追加評価する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。実行速度や正確性は運動・感覚・疼痛・注意など複数要因の影響を受ける。判断対象は「手指巧緻性だけでなく疼痛や注意の影響も考えて追加評価する」。検査成績は機能を直接表す数値ではなく、課題遂行に必要な複数機能の結果として解釈する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q089

身体機能評価 > バランス・姿勢 | 基礎

Berg Balance Scale BBS で主に評価するのはどれか。この論点で、選択肢「言語性記憶」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 握力計などで評価する。
- イ. BBSは座位・立位・移乗・リーチ・方向転換など複数課題からバランス能力を評価する。
- ウ. 記憶検査で評価する。
- エ. 呼吸数はバイタルサインとして評価する。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「最大握力」に対応する説明で、判断対象「言語性記憶」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「座位・立位・移乗・方向転換などの課題からみたバランス能力」に対応する説明で、判断対象「言語性記憶」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「言語性記憶」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「安静時の呼吸数」に対応する説明で、判断対象「言語性記憶」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。記憶検査で評価する。判断対象は「言語性記憶」。Berg Balance Scaleは14項目の動作課題を通して、日常動作に関連する静的・動的バランス能力を評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q090

身体機能評価 > バランス・姿勢 | 標準

開眼では安定しているが閉眼で大きく動揺するRomberg徴候がみられた。示唆されるのはどれか。この論点で、選択肢「深部感覚や前庭情報の利用障害を視覚で代償している可能性」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 上肢筋力だけでは説明できない。
- イ. 言語障害とは無関係である。
- ウ. 閉眼で悪化する場合、視覚に依存して姿勢を保っている可能性がある。
- エ. 閉眼による悪化自体が重要な所見である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「上肢筋力低下だけ」に対応する説明で、判断対象「深部感覚や前庭情報の利用障害を視覚で代償している可能性」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「失語だけ」に対応する説明で、判断対象「深部感覚や前庭情報の利用障害を視覚で代償している可能性」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「深部感覚や前庭情報の利用障害を視覚で代償している可能性」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「視覚がなくても全く問題ないこと」に対応する説明で、判断対象「深部感覚や前庭情報の利用障害を視覚で代償している可能性」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。閉眼で悪化する場合、視覚に依存して姿勢を保っている可能性がある。判断対象は「深部感覚や前庭情報の利用障害を視覚で代償している可能性」。Romberg試験は小脳性失調そのものを単独で判定する検査ではなく、感覚統合の手掛かりとして解釈する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q091

身体機能評価 > バランス・姿勢 | 標準

Functional Reach Testで主に評価するのはどれか。この論点で、選択肢「安静時心拍数」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 前方リーチ距離から立位での安定性限界を評価する。
- イ. 循環評価ではない。
- ウ. 上肢筋力検査ではない。
- エ. 認知言語検査ではない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「立位で支持基底面を変えず前方へどこまで重心を移動できるか」に対応する説明で、判断対象「安静時心拍数」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「安静時心拍数」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「最大握力」に対応する説明で、判断対象「安静時心拍数」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「言語理解」に対応する説明で、判断対象「安静時心拍数」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。循環評価ではない。判断対象は「安静時心拍数」。リーチ距離は体格や動作戦略の影響も受けるため、単独で転倒リスクを断定しない。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q092

身体機能評価 > バランス・姿勢 | 標準

重心動揺検査で記録される代表的なものはどれか。この論点で、選択肢「立位中の足圧中心の揺れ」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 脳血流画像検査ではない。
- イ. ROM検査ではない。
- ウ. 床面上の足圧中心 COP の軌跡などから姿勢動揺を定量化する。
- エ. 筋力計測ではない。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「脳血流量だけ」に対応する説明で、判断対象「立位中の足圧中心の揺れ」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「関節可動域だけ」に対応する説明で、判断対象「立位中の足圧中心の揺れ」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「立位中の足圧中心の揺れ」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「筋力の最大随意収縮だけ」に対応する説明で、判断対象「立位中の足圧中心の揺れ」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。床面上の足圧中心 COP の軌跡などから姿勢動揺を定量化する。判断対象は「立位中の足圧中心の揺れ」。定量的バランス評価は面積・軌跡長・方向性などを用いるが、臨床観察と合わせて解釈する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q093

身体機能評価 > バランス・姿勢 | 応用

静的立位検査は良好だが、買い物中の方向転換や二重課題で転倒を繰り返す。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「転倒歴を無視する」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 転倒歴は重要な情報である。
- イ. 静的バランスだけでは実生活の複雑な要求を反映しない。
- ウ. 転倒場面に近い方向転換・歩行・二重課題等を評価する必要がある。
- エ. 多因子評価が必要である。

OT04 Q094

身体機能評価 > 呼吸・循環 | 標準

COPD患者の更衣動作を評価する際に、活動耐容能把握のため合わせて確認すべき項目はどれか。この論点で、選択肢「呼吸数・SpO2・息切れの程度」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 握力だけでは呼吸耐容能を評価できない。
- イ. 呼吸器疾患では酸素化、呼吸数、自覚的呼吸困難などを活動前後で確認する。
- ウ. 認知検査だけでは全身反応を把握できない。
- エ. 視野評価ではない。

答え・4肢解説

正答：ア

- ア：正しい。これは判断対象「転倒歴を無視する」が誤答となる理由を直接説明している。
- イ：誤り。これは別の選択肢「静的立位が良好なので転倒リスクなしとする」に対応する説明で、判断対象「転倒歴を無視する」の直接の根拠ではない。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「動的バランスや注意分配を含む実生活に近い条件を追加評価する」に対応する説明で、判断対象「転倒歴を無視する」の直接の根拠ではない。
- エ：誤り。これは別の選択肢「筋力検査だけで評価を終える」に対応する説明で、判断対象「転倒歴を無視する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。転倒歴は重要な情報である。判断対象は「転倒歴を無視する」。バランス能力は課題・環境によって変化するため、患者が転倒する具体的状況を再現して評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：イ

- ア：誤り。これは別の選択肢「握力だけ」に対応する説明で、判断対象「呼吸数・SpO2・息切れの程度」の直接の根拠ではない。
- イ：正しい。これは判断対象「呼吸数・SpO2・息切れの程度」が正答となる理由を直接説明している。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「知能指数だけ」に対応する説明で、判断対象「呼吸数・SpO2・息切れの程度」の直接の根拠ではない。
- エ：誤り。これは別の選択肢「視野だけ」に対応する説明で、判断対象「呼吸数・SpO2・息切れの程度」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。呼吸器疾患では酸素化、呼吸数、自覚的呼吸困難などを活動前後で確認する。判断対象は「呼吸数・SpO2・息切れの程度」。内部障害の作業評価では作業遂行と生理的負荷を同時に観察する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q095

身体機能評価 > 呼吸・循環 | 応用

心疾患患者の作業課題中、心拍数は大きく上がらないが強い疲労と息切れを訴える。β遮断薬を服用している。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「症状は無視する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 薬剤は循環反応へ影響し得る。
- イ. β遮断薬では心拍応答が抑えられるため、症状やRPE等も合わせて判断する。
- ウ. 心拍数だけでは負荷を過小評価する可能性がある。
- エ. 息切れや疲労は重要な安全情報である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「薬剤は運動反応に影響しないと考える」に対応する説明で、判断対象「症状は無視する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「心拍数だけでなく血圧・症状・自覚的運動強度なども用いて評価する」に対応する説明で、判断対象「症状は無視する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「心拍数が低いので必ず安全と判断する」に対応する説明で、判断対象「症状は無視する」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「症状は無視する」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。息切れや疲労は重要な安全情報である。判断対象は「症状は無視する」。活動耐容能の評価では基礎疾患と服薬を踏まえ、生理指標と主観指標を統合する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q096

身体機能評価 > 画像・筋電図・神経伝導等 | 基礎

脳の局所血流や代謝など機能的情報を評価する目的で用いられる画像検査はどれか。この論点で、選択肢「SPECTやPET」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. SPECTは血流など、PETは代謝や受容体分布などの機能的情報を画像化するために用いられる。
- イ. 単純X線は主に骨などの構造評価に用いられ、脳局所血流・代謝の機能画像ではない。
- ウ. 神経伝導検査は末梢神経の電気生理学的検査である。
- エ. ゴニオメトリーは関節可動域を角度で測定する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「SPECTやPET」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「単純X線だけ」に対応する説明で、判断対象「SPECTやPET」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「神経伝導検査」に対応する説明で、判断対象「SPECTやPET」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「ゴニオメトリー」に対応する説明で、判断対象「SPECTやPET」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。SPECTは血流など、PETは代謝や受容体分布などの機能的情報を画像化するために用いられる。判断対象は「SPECTやPET」。画像評価では、CT・MRIなど構造を主にみる検査と、SPECT・PETなど機能情報を扱う検査を目的に応じて区別する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q097

身体機能評価 > 画像・筋電図・神経伝導等 | 標準

針筋電図 needle EMG で主に評価するのはどれか。この論点で、選択肢「血中酸素飽和度を測る」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. SPECTやPETなどの説明である。
- イ. 針筋電図は筋の電気活動から神経筋疾患の病態評価に用いられる。
- ウ. ゴニオメータなどを用いる。
- エ. パルスオキシメータの役割である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「脳血流を画像化する」に対応する説明で、判断対象「血中酸素飽和度を測る」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「筋に針電極を挿入して安静時・収縮時の電気活動を記録する」に対応する説明で、判断対象「血中酸素飽和度を測る」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「関節角度を測定する」に対応する説明で、判断対象「血中酸素飽和度を測る」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「血中酸素飽和度を測る」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。パルスオキシメータの役割である。判断対象は「血中酸素飽和度を測る」。筋電図所見は神経伝導検査や神経学的所見と合わせて病変部位を推定する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q098

身体機能評価 > 画像・筋電図・神経伝導等 | 応用

神経伝導検査 NCS の説明として正しいのはどれか。この論点で、選択肢「末梢神経を電気刺激し、伝導速度や反応振幅などを評価する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 末梢神経の伝導特性を測定し、脱髄や軸索障害などの判断材料とする。
- イ. 電気生理学的検査である。
- ウ. ROM測定ではない。
- エ. 脳血流画像ではない。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「末梢神経を電気刺激し、伝導速度や反応振幅などを評価する」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「心理状態だけを評価する」に対応する説明で、判断対象「末梢神経を電気刺激し、伝導速度や反応振幅などを評価する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「関節可動域を自動測定する」に対応する説明で、判断対象「末梢神経を電気刺激し、伝導速度や反応振幅などを評価する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「大脳皮質の血流を測定する」に対応する説明で、判断対象「末梢神経を電気刺激し、伝導速度や反応振幅などを評価する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。末梢神経の伝導特性を測定し、脱髄や軸索障害などの判断材料とする。判断対象は「末梢神経を電気刺激し、伝導速度や反応振幅などを評価する」。電気生理学的検査は末梢神経・筋の病態把握に有用だが、機能障害や生活上の困難は別途評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q099

高次脳・認知・精神心理評価 > 高次脳機能検査 | 標準

Trail Making Testで、数字と文字を交互に結ぶ課題を含み、注意の切替えや遂行機能の負荷がより大きいのはどれか。この論点で、選択肢「MMT」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. Barthel IndexはADL評価である。
- イ. Part Bは系列を切り替えながら遂行するため、注意の転換や遂行機能への負荷が高い。
- ウ. MMTは筋力検査である。
- エ. Part Aは主に視覚探索、処理速度、持続的注意などをみる。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「Barthel Index」に対応する説明で、判断対象「MMT」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「Part B」に対応する説明で、判断対象「MMT」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「MMT」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「Part A」に対応する説明で、判断対象「MMT」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。MMTは筋力検査である。判断対象は「MMT」。Trail Making Testは所要時間だけでなく、誤り方や探索行動も臨床解釈に役立つ。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q100

高次脳・認知・精神心理評価 > 高次脳機能検査 | 基礎

Behavioural Inattention Test BIT で主に評価する障害はどれか。この論点で、選択肢「半側空間無視」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. BITは半側空間無視の評価に用いられる。
- イ. 筋力検査ではない。
- ウ. 言語機能だけを測る検査ではない。
- エ. ROM評価ではない。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「半側空間無視」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「筋力低下」に対応する説明で、判断対象「半側空間無視」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「失語だけ」に対応する説明で、判断対象「半側空間無視」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「関節拘縮」に対応する説明で、判断対象「半側空間無視」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。BITは半側空間無視の評価に用いられる。判断対象は「半側空間無視」。半側空間無視は机上課題だけでなく、食事・更衣・移動など生活場面でも評価することが重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q101

高次脳・認知・精神心理評価 > 高次脳機能検査 | 標準

右半球損傷患者が線分二等分課題で、中心より一貫して右側へ印をつける。最も考えやすいのはどれか。この論点で、選択肢「筋力低下だけ」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 言語障害だけでは説明できない。
- イ. 筋力だけの問題ではない。
- ウ. 左側空間への注意低下があると、主観の中心が右へ偏ることがある。
- エ. 末梢神経障害だけでは空間性の偏りを説明しにくい。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「失語だけ」に対応する説明で、判断対象「筋力低下だけ」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「筋力低下だけ」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「左半側空間無視」に対応する説明で、判断対象「筋力低下だけ」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「右末梢神経障害」に対応する説明で、判断対象「筋力低下だけ」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。筋力だけの問題ではない。判断対象は「筋力低下だけ」。半側空間無視の評価では線分二等分、抹消課題、模写、実生活観察など複数課題を組み合わせる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q102

高次脳・認知・精神心理評価 > 高次脳機能検査 | 基礎

標準失語症検査 SLTA で主に評価するのはどれか。この論点で、選択肢「聴く・話す・読む・書くなどの言語機能」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. ROM検査ではない。
- イ. 運動負荷試験ではない。
- ウ. 筋力評価ではない。
- エ. SLTAは失語症の言語機能を複数モダリティから評価する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「関節可動域」に対応する説明で、判断対象「聴く・話す・読む・書くなどの言語機能」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「心肺持久力」に対応する説明で、判断対象「聴く・話す・読む・書くなどの言語機能」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「下肢筋力」に対応する説明で、判断対象「聴く・話す・読む・書くなどの言語機能」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「聴く・話す・読む・書くなどの言語機能」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。SLTAは失語症の言語機能を複数モダリティから評価する。判断対象は「聴く・話す・読む・書くなどの言語機能」。失語評価では検査成績に加え、日常会話での理解・表出・代償手段を観察する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q103

高次脳・認知・精神心理評価 > 高次脳機能検査 | 標準

Rivermead Behavioural Memory Test RBMT の特徴として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「筋緊張を段階づけする」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 握力検査ではない。
- イ. 視覚検査ではない。
- ウ. RBMTは日常場面で必要となる記憶能力を行動的課題で評価する。
- エ. 筋緊張尺度ではない。

OT04 Q104

高次脳・認知・精神心理評価 > 高次脳機能検査 | 標準

Wechsler Memory Scale WMS で主に評価するのはどれか。この論点で、選択肢「記憶機能」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. WMSは言語性・視覚性を含む記憶機能を多面的に評価する。
- イ. 歩行検査ではない。
- ウ. ROM測定ではない。
- エ. 疼痛尺度ではない。

答え・4肢解説

正答：エ

- ア：誤り。これは別の選択肢「最大握力を測る」に対応する説明で、判断対象「筋緊張を段階づけする」の直接の根拠ではない。
- イ：誤り。これは別の選択肢「視力だけを測る」に対応する説明で、判断対象「筋緊張を段階づけする」の直接の根拠ではない。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「日常生活に近い状況で記憶機能を評価する」に対応する説明で、判断対象「筋緊張を段階づけする」の直接の根拠ではない。
- エ：正しい。これは判断対象「筋緊張を段階づけする」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。筋緊張尺度ではない。判断対象は「筋緊張を段階づけする」。記憶検査では単純な記銘量だけでなく、日常生活で予定や情報を保持・想起できるかをみることが重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：ア

- ア：正しい。これは判断対象「記憶機能」が正答となる理由を直接説明している。
- イ：誤り。これは別の選択肢「歩行能力」に対応する説明で、判断対象「記憶機能」の直接の根拠ではない。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「関節可動域」に対応する説明で、判断対象「記憶機能」の直接の根拠ではない。
- エ：誤り。これは別の選択肢「疼痛強度」に対応する説明で、判断対象「記憶機能」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。WMSは言語性・視覚性を含む記憶機能を多面的に評価する。判断対象は「記憶機能」。記憶評価では入力、保持、想起、再認など、どの過程に問題があるかを検討する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q105

高次脳・認知・精神心理評価 > 高次脳機能検査 | 標準

Behavioural Assessment of the Dysexecutive Syndrome BADS の主な目的はどれか。この論点で、選択肢「失語だけを診断する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. BADSは日常生活に関連する遂行機能障害を行動課題で評価する。
- イ. 言語機能だけの検査ではない。
- ウ. 呼吸機能検査ではない。
- エ. 筋力検査ではない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「計画、問題解決、柔軟性など遂行機能を評価する」に対応する説明で、判断対象「失語だけを診断する」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「失語だけを診断する」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「呼吸機能を測定する」に対応する説明で、判断対象「失語だけを診断する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「握力を測定する」に対応する説明で、判断対象「失語だけを診断する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。言語機能だけの検査ではない。判断対象は「失語だけを診断する」。遂行機能障害は定型的な机上課題では目立ちにくいことがあり、複雑な生活課題での観察も重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q106

高次脳・認知・精神心理評価 > 高次脳機能検査 | 標準

Frontal Assessment Battery FAB で主に評価するのはどれか。この論点で、選択肢「前頭葉機能・遂行機能」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. ADL尺度ではない。
- イ. 神経学的反射検査ではない。
- ウ. 疼痛尺度ではない。
- エ. FABは概念化、語の流暢性、運動系列、抑制など前頭葉機能を簡便に評価する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「ADL自立度」に対応する説明で、判断対象「前頭葉機能・遂行機能」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「下肢深部腱反射」に対応する説明で、判断対象「前頭葉機能・遂行機能」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「関節痛」に対応する説明で、判断対象「前頭葉機能・遂行機能」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「前頭葉機能・遂行機能」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。FABは概念化、語の流暢性、運動系列、抑制など前頭葉機能を簡便に評価する。判断対象は「前頭葉機能・遂行機能」。FABは短時間のスクリーニングとして有用だが、低得点の原因は教育歴や他の認知機能も含めて解釈する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q107

高次脳・認知・精神心理評価 > 高次脳機能検査 | 基礎

Wisconsin Card Sorting Test WCST で、途中で分類規則が変化した際に以前の規則へ固執する所見は何を示唆するか。この論点で、選択肢「視力低下だけ」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 疼痛評価ではない。
- イ. 視覚入力には必要だが、固執性の中心的解釈ではない。
- ウ. 筋力検査ではない。
- エ. 規則変更へ対応できず保続する所見は、セット転換や認知的柔軟性の低下を示唆する。

OT04 Q108

高次脳・認知・精神心理評価 > 高次脳機能検査 | 応用

筋力・感覚は十分保たれているが、歯ブラシを使う真似を命じると目的に合った動作ができない。評価として最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「失行を疑い、道具使用や模倣など複数条件で評価する」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 運動麻痺や理解障害では説明できない目的動作の障害では失行を考える。
- イ. 筋力が保たれているため高次運動機能評価が必要である。
- ウ. 道具使用の概念や運動プログラムを評価する必要がある。
- エ. 症例条件と合わない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「疼痛閾値低下」に対応する説明で、判断対象「視力低下だけ」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「視力低下だけ」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「最大筋力低下」に対応する説明で、判断対象「視力低下だけ」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「認知的柔軟性の低下」に対応する説明で、判断対象「視力低下だけ」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。視覚入力には必要だが、固執性の中心的解釈ではない。判断対象は「視力低下だけ」。遂行機能検査では正答数だけでなく、保続やエラーのパターンを解釈する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「失行を疑い、道具使用や模倣など複数条件で評価する」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「MMTだけを繰り返す」に対応する説明で、判断対象「失行を疑い、道具使用や模倣など複数条件で評価する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「視力低下だけと判断する」に対応する説明で、判断対象「失行を疑い、道具使用や模倣など複数条件で評価する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「筋力低下と断定する」に対応する説明で、判断対象「失行を疑い、道具使用や模倣など複数条件で評価する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。運動麻痺や理解障害では説明できない目的動作の障害では失行を考える。判断対象は「失行を疑い、道具使用や模倣など複数条件で評価する」。失行は命令、模倣、実物使用など条件で成績が変わるため、複数場面で評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q109

高次脳・認知・精神心理評価 > 認知機能・認知症評価 | 基礎

改訂長谷川式簡易知能評価スケール HDS-R の主な用途はどれか。この論点で、選択肢「歩行分析」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. HDS-Rは日本で広く用いられる認知症スクリーニング尺度である。
- イ. 歩行能力評価ではない。
- ウ. 疼痛尺度ではない。
- エ. 筋力検査ではない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「認知機能低下のスクリーニング」に対応する説明で、判断対象「歩行分析」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「歩行分析」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「疼痛評価」に対応する説明で、判断対象「歩行分析」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「筋力評価」に対応する説明で、判断対象「歩行分析」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。歩行能力評価ではない。判断対象は「歩行分析」。スクリーニング尺度の得点だけで認知症の診断や原因疾患を確定せず、生活機能や医学的評価と統合する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q110

高次脳・認知・精神心理評価 > 認知機能・認知症評価 | 基礎

Mini-Mental State Examination MMSE で評価される内容として適切なものはどれか。この論点で、選択肢「見当識、記憶、注意、言語など」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 呼吸機能検査ではない。
- イ. 上肢筋力評価ではない。
- ウ. ROM検査ではない。
- エ. MMSEは複数の認知領域を簡便にスクリーニングする。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「肺活量だけ」に対応する説明で、判断対象「見当識、記憶、注意、言語など」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「握力とピンチ力」に対応する説明で、判断対象「見当識、記憶、注意、言語など」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「関節可動域だけ」に対応する説明で、判断対象「見当識、記憶、注意、言語など」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「見当識、記憶、注意、言語など」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。MMSEは複数の認知領域を簡便にスクリーニングする。判断対象は「見当識、記憶、注意、言語など」。MMSEは全般的認知機能のスクリーニングであり、詳細な高次脳機能評価の代替ではない。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q111

高次脳・認知・精神心理評価 > 認知機能・認知症評価 | 標準

日常生活はほぼ自立しているが、本人と家族が軽度の物忘れや段取り低下を訴えている。より軽度の認知機能低下のスクリーニングを目的として使用される検査はどれか。この論点で、選択肢「MMT」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. バランス評価である。
- イ. 筋力検査である。
- ウ. 疼痛強度尺度である。
- エ. MoCAは軽度認知障害を含む比較的軽い認知機能低下のスクリーニングに用いられる。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「Berg Balance Scale」に対応する説明で、判断対象「MMT」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「MMT」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「NRS」に対応する説明で、判断対象「MMT」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「MoCA」に対応する説明で、判断対象「MMT」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。筋力検査である。判断対象は「MMT」。MoCAは記憶だけでなく遂行機能、視空間、注意、言語、見当識など複数領域をみる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q112

高次脳・認知・精神心理評価 > 認知機能・認知症評価 | 応用

認知機能スクリーニングが低得点だったが、難聴が強く指示を聞き取りにくかった。最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「聴覚条件が成績へ与えた影響を考慮し、必要に応じて再評価や他情報を組み合わせる」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 指示理解に聴覚が影響する。
- イ. 感覚障害、教育歴、言語、疲労など測定条件が得点へ影響する。
- ウ. スクリーニングだけで診断を確定しない。
- エ. IADLや家族情報など生活機能が重要である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「難聴は認知検査に影響しないと考える」に対応する説明で、判断対象「聴覚条件が成績へ与えた影響を考慮し、必要に応じて再評価や他情報を組み合わせる」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「聴覚条件が成績へ与えた影響を考慮し、必要に応じて再評価や他情報を組み合わせる」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「低得点だけで認知症と確定する」に対応する説明で、判断対象「聴覚条件が成績へ与えた影響を考慮し、必要に応じて再評価や他情報を組み合わせる」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「生活状況を確認しない」に対応する説明で、判断対象「聴覚条件が成績へ与えた影響を考慮し、必要に応じて再評価や他情報を組み合わせる」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。感覚障害、教育歴、言語、疲労など測定条件が得点へ影響する。判断対象は「聴覚条件が成績へ与えた影響を考慮し、必要に応じて再評価や他情報を組み合わせる」。認知評価は検査得点、病歴、観察、生活機能、本人・家族情報を統合して解釈する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q113

高次脳・認知・精神心理評価 > 認知機能・認知症評価 | 標準

Functional Assessment Staging FAST が主に評価するのはどれか。この論点で、選択肢「疼痛強度」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 疼痛尺度ではない。
- イ. 失語症検査ではない。
- ウ. 筋力尺度ではない。
- エ. FASTは認知症の進行に伴う日常機能の低下を段階的に捉える。

OT04 Q114

高次脳・認知・精神心理評価 > 認知機能・認知症評価 | 応用

認知症患者が夕方になると落ち着かず帰宅しようとする。評価として最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「出現時刻、前後の出来事、身体状態、環境刺激、対応後の変化を記録する」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. BPSDは誘因や環境との関連を具体的に記録すると介入仮説を立てやすい。
- イ. 反復するからこそパターン評価が有用である。
- ウ. 行動の機能や背景要因を評価する。
- エ. 認知得点だけでは行動の出現条件を説明できない。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「疼痛強度」が誤答となる理由を直接説明している。
イ：誤り。これは別の選択肢「失語の言語モダリティ」に対応する説明で、判断対象「疼痛強度」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「最大筋力」に対応する説明で、判断対象「疼痛強度」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「認知症に伴う機能低下の段階」に対応する説明で、判断対象「疼痛強度」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。疼痛尺度ではない。判断対象は「疼痛強度」。認知症評価では認知検査得点だけでなく、日常生活で何ができなくなっているかを病期と関連づけてみる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「出現時刻、前後の出来事、身体状態、環境刺激、対応後の変化を記録する」が正答となる理由を直接説明している。
イ：誤り。これは別の選択肢「毎回同じ行動なので評価不要とする」に対応する説明で、判断対象「出現時刻、前後の出来事、身体状態、環境刺激、対応後の変化を記録する」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「行動名だけを記載して背景は調べない」に対応する説明で、判断対象「出現時刻、前後の出来事、身体状態、環境刺激、対応後の変化を記録する」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「認知検査得点だけで原因を決める」に対応する説明で、判断対象「出現時刻、前後の出来事、身体状態、環境刺激、対応後の変化を記録する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。BPSDは誘因や環境との関連を具体的に記録すると介入仮説を立てやすい。判断対象は「出現時刻、前後の出来事、身体状態、環境刺激、対応後の変化を記録する」。認知症の行動評価では本人のニーズ、疼痛、排泄、疲労、環境、対人関係などを含めて考える。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q115

高次脳・認知・精神心理評価 > 精神症状・精神科評価尺度 | 基礎

Positive and Negative Syndrome Scale PANSS で主に評価するのはどれか。この論点で、選択肢「ADL自立度」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. PANSSは統合失調症の症状評価に用いられる。
- イ. ROM評価ではない。
- ウ. 呼吸機能検査ではない。
- エ. ADL尺度ではない。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「統合失調症の陽性症状・陰性症状・全般精神病理」に対応する説明で、判断対象「ADL自立度」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「関節可動域」に対応する説明で、判断対象「ADL自立度」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「呼吸機能」に対応する説明で、判断対象「ADL自立度」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「ADL自立度」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。ADL尺度ではない。判断対象は「ADL自立度」。精神科尺度は診断名を決めるだけでなく、症状の重症度や経時変化を客観化するために用いる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q116

高次脳・認知・精神心理評価 > 精神症状・精神科評価尺度 | 標準

Brief Psychiatric Rating Scale BPRS の特徴として最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「幻覚・妄想・抑うつ・不安など幅広い精神症状の重症度を評価する」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 筋緊張尺度ではない。
- イ. ADL尺度ではない。
- ウ. BPRSは複数の精神症状を臨床家が評価する尺度である。
- エ. 筋力検査ではない。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「筋緊張を評価する」に対応する説明で、判断対象「幻覚・妄想・抑うつ・不安など幅広い精神症状の重症度を評価する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「認知症のADLだけを評価する」に対応する説明で、判断対象「幻覚・妄想・抑うつ・不安など幅広い精神症状の重症度を評価する」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「幻覚・妄想・抑うつ・不安など幅広い精神症状の重症度を評価する」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「握力だけを測る」に対応する説明で、判断対象「幻覚・妄想・抑うつ・不安など幅広い精神症状の重症度を評価する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。BPRSは複数の精神症状を臨床家が評価する尺度である。判断対象は「幻覚・妄想・抑うつ・不安など幅広い精神症状の重症度を評価する」。精神症状尺度は面接・観察の標準化に役立つが、生活機能や本人の主観も別途評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q117

高次脳・認知・精神心理評価 > 精神症状・精神科評価尺度 | 基礎

Hamilton Depression Rating Scale HAM-D で主に評価するのはどれか。この論点で、選択肢「半側空間無視」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

ア. HAM-Dは臨床家がうつ症状の重症度を評価する尺度である。

イ. 上肢機能検査ではない。

ウ. 躁症状を主対象とする尺度ではない。

エ. 高次脳機能障害の評価ではない。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「抑うつ症状の重症度」に対応する説明で、判断対象「半側空間無視」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「手指巧緻性」に対応する説明で、判断対象「半側空間無視」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「躁症状だけ」に対応する説明で、判断対象「半側空間無視」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「半側空間無視」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。高次脳機能障害の評価ではない。判断対象は「半側空間無視」。うつ評価では尺度得点に加え、自殺念慮、生活リズム、活動性、役割遂行などを確認する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q118

高次脳・認知・精神心理評価 > 精神症状・精神科評価尺度 | 標準

Self-rating Depression Scale SDS の特徴として正しいのはどれか。この論点で、選択肢「本人が回答する自己評価式の抑うつ尺度である」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

ア. 身体機能評価ではない。

イ. バランス尺度ではない。

ウ. SDSは抑うつ症状について本人が回答する自己記入式尺度である。

エ. 言語検査ではない。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「検者が筋力を測る尺度である」に対応する説明で、判断対象「本人が回答する自己評価式の抑うつ尺度である」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「バランス能力を評価する」に対応する説明で、判断対象「本人が回答する自己評価式の抑うつ尺度である」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「本人が回答する自己評価式の抑うつ尺度である」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「失語症だけを評価する」に対応する説明で、判断対象「本人が回答する自己評価式の抑うつ尺度である」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。SDSは抑うつ症状について本人が回答する自己記入式尺度である。判断対象は「本人が回答する自己評価式の抑うつ尺度である」。自己評価尺度は本人の主観を得やすい一方、理解力や自己認識の影響を受けるため面接・観察と合わせる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q119

高次脳・認知・精神心理評価 > 精神症状・精神科評価尺度 | 標準

State-Trait Anxiety Inventory STAI で区別して評価するものはどれか。この論点で、選択肢「運動機能と認知機能」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 生活機能尺度ではない。
- イ. 身体・認知の総合尺度ではない。
- ウ. PANSSの分類に近い。
- エ. STAIは状態不安と特性不安を分けて評価する。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「ADLとIADL」に対応する説明で、判断対象「運動機能と認知機能」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「運動機能と認知機能」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「陽性症状と陰性症状」に対応する説明で、判断対象「運動機能と認知機能」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「その時点の状態不安と比較的持続的な特性不安」に対応する説明で、判断対象「運動機能と認知機能」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。身体・認知の総合尺度ではない。判断対象は「運動機能と認知機能」。不安評価では場面依存性の一時的反応と、個人の比較的安定した傾向を区別する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q120

高次脳・認知・精神心理評価 > 精神症状・精神科評価尺度 | 標準

Profile of Mood States POMS で主に把握するのはどれか。この論点で、選択肢「複数の気分状態」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. POMSは緊張、不安、抑うつ、怒り、活気、疲労など複数の気分状態を評価する。
- イ. 運動器画像評価ではない。
- ウ. 神経伝導検査ではない。
- エ. 呼吸機能検査ではない。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「複数の気分状態」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「関節変形」に対応する説明で、判断対象「複数の気分状態」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「末梢神経伝導速度」に対応する説明で、判断対象「複数の気分状態」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「最大呼吸流量」に対応する説明で、判断対象「複数の気分状態」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。POMSは緊張、不安、抑うつ、怒り、活気、疲労など複数の気分状態を評価する。判断対象は「複数の気分状態」。気分プロフィールは活動参加や疲労との関連を考える際にも参考になる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q121

高次脳・認知・精神心理評価 > 精神症状・精神科評価尺度 | 応用

双極性障害患者で睡眠欲求低下、多弁、活動性亢進が目立ち、躁症状の重症度を経時的に評価したい。適切な尺度はどれか。この論点で、選択肢「NRS」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. ADL尺度である。
- イ. YMRSは躁症状の重症度評価に用いられる。
- ウ. 疼痛強度尺度である。
- エ. バランス評価である。

答え・4肢解説

正答：ウ

- ア：誤り。これは別の選択肢「Barthel Index」に対応する説明で、判断対象「NRS」の直接の根拠ではない。
- イ：誤り。これは別の選択肢「Young Mania Rating Scale YMRS」に対応する説明で、判断対象「NRS」の直接の根拠ではない。
- ウ：正しい。これは判断対象「NRS」が誤答となる理由を直接説明している。
- エ：誤り。これは別の選択肢「Berg Balance Scale」に対応する説明で、判断対象「NRS」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。疼痛強度尺度である。判断対象は「NRS」。精神科評価では病態に対応した尺度を選択し、症状変化を活動・睡眠・対人行動と合わせて追跡する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q122

高次脳・認知・精神心理評価 > 行動・コミュニケーション評価 | 標準

『落ち着きがない』という行動を評価する方法として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「離席回数や歩き回る時間など観察可能な行動として定義する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 行動を具体的・観察可能に定義すると再現性のある記録が可能になる。
- イ. 行動の背景要因を評価する必要がある。
- ウ. 頻度・持続時間などの定量化が役立つ。
- エ. 主観的印象だけでは変化を比較しにくい。

答え・4肢解説

正答：ア

- ア：正しい。これは判断対象「離席回数や歩き回る時間など観察可能な行動として定義する」が正答となる理由を直接説明している。
- イ：誤り。これは別の選択肢「原因を確認せず性格と決める」に対応する説明で、判断対象「離席回数や歩き回る時間など観察可能な行動として定義する」の直接の根拠ではない。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「頻度を記録しない」に対応する説明で、判断対象「離席回数や歩き回る時間など観察可能な行動として定義する」の直接の根拠ではない。
- エ：誤り。これは別の選択肢「印象だけで毎回判断する」に対応する説明で、判断対象「離席回数や歩き回る時間など観察可能な行動として定義する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。行動を具体的・観察可能に定義すると再現性のある記録が可能になる。判断対象は「離席回数や歩き回る時間など観察可能な行動として定義する」。行動評価では何が起きたかを具体化し、前後条件や結果まで記録すると介入仮説を立てやすい。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q123

高次脳・認知・精神心理評価 > 行動・コミュニケーション評価 | 標準

行動のABC分析でAに該当するのはどれか。この論点で、選択肢「行動後の結果 Consequence」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 診断名はABCの構成要素ではない。
- イ. Aは行動に先行する環境・状況・要求などを指す。
- ウ. Bが行動そのものである。
- エ. Cが行動の結果である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「診断名」に対応する説明で、判断対象「行動後の結果 Consequence」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「行動の直前に起きた先行条件 Antecedent」に対応する説明で、判断対象「行動後の結果 Consequence」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「行動そのもの Behavior」に対応する説明で、判断対象「行動後の結果 Consequence」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「行動後の結果 Consequence」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。Cが行動の結果である。判断対象は「行動後の結果 Consequence」。ABC分析は問題行動を本人の性格へ還元せず、環境との機能的関係を理解する方法である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q124

高次脳・認知・精神心理評価 > 行動・コミュニケーション評価 | 基礎

コミュニケーション評価で非言語的要素に含まれるのはどれか。この論点で、選択肢「視線・表情・ジェスチャー」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. バイタルサインである。
- イ. 神経学的反射である。
- ウ. 視線、表情、身振り、対人距離などは非言語的コミュニケーションに含まれる。
- エ. ROM評価である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「血圧」に対応する説明で、判断対象「視線・表情・ジェスチャー」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「腱反射」に対応する説明で、判断対象「視線・表情・ジェスチャー」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「視線・表情・ジェスチャー」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「関節角度」に対応する説明で、判断対象「視線・表情・ジェスチャー」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。視線、表情、身振り、対人距離などは非言語的コミュニケーションに含まれる。判断対象は「視線・表情・ジェスチャー」。会話内容だけでなく非言語的応答や相互作用のタイミングも社会的コミュニケーション評価に重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q125

高次脳・認知・精神心理評価 > 行動・コミュニケーション評価 | 応用

会話内容は理解できるが、相手の怒った表情を読み取れず不適切な発言を繰り返す。追加評価として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「視力が正常なら問題なしとする」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 感情認知や他者の意図推測など社会的認知の評価が必要である。
- イ. 視覚入力が正常でも社会的認知の処理に障害があり得る。
- ウ. 関節機能ではない。
- エ. 筋力では対人行動を説明できない。

答え・4肢解説

正答：イ

- ア：誤り。これは別の選択肢「表情認知や他者意図理解など社会的認知を評価する」に対応する説明で、判断対象「視力が正常なら問題なしとする」の直接の根拠ではない。
- イ：正しい。これは判断対象「視力が正常なら問題なしとする」が誤答となる理由を直接説明している。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「ROMだけを測る」に対応する説明で、判断対象「視力が正常なら問題なしとする」の直接の根拠ではない。
- エ：誤り。これは別の選択肢「MMTだけを行う」に対応する説明で、判断対象「視力が正常なら問題なしとする」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。視覚入力が正常でも社会的認知の処理に障害があり得る。判断対象は「視力が正常なら問題なしとする」。社会的認知は対人技能と社会参加へ直結するため、実際の会話・集団場面でも観察する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q126

高次脳・認知・精神心理評価 > 行動・コミュニケーション評価 | 応用

失語症患者が静かな1対1場面では意思疎通できるが、騒がしい集団では会話へ参加できない。最も適切な解釈はどれか。この論点で、選択肢「本人の言語能力だけでなく環境刺激や会話人数がコミュニケーションへ影響している」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 社会参加場面での困難も重要な評価対象である。
- イ. 言語機能と実用コミュニケーションの双方をみる。
- ウ. 環境負荷や言語処理の影響を評価する。
- エ. コミュニケーションは本人の機能と会話相手・環境条件の相互作用で変化する。

答え・4肢解説

正答：エ

- ア：誤り。これは別の選択肢「1対1で話せるので問題はない」に対応する説明で、判断対象「本人の言語能力だけでなく環境刺激や会話人数がコミュニケーションへ影響している」の直接の根拠ではない。
- イ：誤り。これは別の選択肢「言語評価は不要である」に対応する説明で、判断対象「本人の言語能力だけでなく環境刺激や会話人数がコミュニケーションへ影響している」の直接の根拠ではない。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「集団参加困難は必ず性格の問題である」に対応する説明で、判断対象「本人の言語能力だけでなく環境刺激や会話人数がコミュニケーションへ影響している」の直接の根拠ではない。
- エ：正しい。これは判断対象「本人の言語能力だけでなく環境刺激や会話人数がコミュニケーションへ影響している」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。コミュニケーションは本人の機能と会話相手・環境条件の相互作用で変化する。判断対象は「本人の言語能力だけでなく環境刺激や会話人数がコミュニケーションへ影響している」。実用的コミュニケーション評価では、誰と、どこで、どの手段なら意思疎通できるかを具体的に把握する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q127

発達・活動・参加評価 > 発達検査 | 基礎

改訂日本版デンバー式発達スクリーニング検査 JDDST-R の主な目的はどれか。この論点で、選択肢「成人の最大握力を測定する」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 筋力検査ではない。
- イ. 疼痛尺度ではない。
- ウ. 認知症評価尺度ではない。
- エ. JDDST-Rは乳幼児の発達を複数領域からスクリーニングする。

OT04 Q128

発達・活動・参加評価 > 発達検査 | 標準

遠城寺式乳幼児分析的発達検査の特徴として最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「乳幼児の発達を運動・社会性・言語など複数領域から把握する」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 筋緊張評価だけではない。
- イ. 成人ADL尺度ではない。
- ウ. 乳幼児の発達を複数側面からプロフィールとして把握する。
- エ. 高齢者認知尺度ではない。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「成人の最大握力を測定する」が誤答となる理由を直接説明している。
イ：誤り。これは別の選択肢「疼痛強度を測定する」に対応する説明で、判断対象「成人の最大握力を測定する」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「認知症の重症度を判定する」に対応する説明で、判断対象「成人の最大握力を測定する」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「乳幼児の発達上の遅れや偏りをスクリーニングする」に対応する説明で、判断対象「成人の最大握力を測定する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。筋力検査ではない。判断対象は「成人の最大握力を測定する」。発達スクリーニングは診断そのものではなく、詳細評価や支援の必要性を判断する入口となる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「筋緊張だけを測定する」に対応する説明で、判断対象「乳幼児の発達を運動・社会性・言語など複数領域から把握する」の直接の根拠ではない。
イ：誤り。これは別の選択肢「成人のADL自立度だけを評価する」に対応する説明で、判断対象「乳幼児の発達を運動・社会性・言語など複数領域から把握する」の直接の根拠ではない。
ウ：正しい。これは判断対象「乳幼児の発達を運動・社会性・言語など複数領域から把握する」が正答となる理由を直接説明している。
エ：誤り。これは別の選択肢「高齢者の認知症だけを評価する」に対応する説明で、判断対象「乳幼児の発達を運動・社会性・言語など複数領域から把握する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。乳幼児の発達を複数側面からプロフィールとして把握する。判断対象は「乳幼児の発達を運動・社会性・言語など複数領域から把握する」。発達検査では総合的な発達水準だけでなく、領域間のばらつきにも注目する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q129

発達・活動・参加評価 > 発達検査 | 標準

新版K式発達検査で評価する発達領域として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「ADL、IADL、QOLだけ」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 成人生活機能尺度の組合せではない。
- イ. 新版K式では姿勢・運動、認知・適応、言語・社会の領域から発達を把握する。
- ウ. 身体機能検査の組合せではない。
- エ. 感覚器検査だけではない。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「ADL、IADL、QOLだけ」が誤答となる理由を直接説明している。
イ：誤り。これは別の選択肢「姿勢・運動、認知・適応、言語・社会」に対応する説明で、判断対象「ADL、IADL、QOLだけ」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「筋力、肺活量、血圧のみ」に対応する説明で、判断対象「ADL、IADL、QOLだけ」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「視力、聴力、嗅覚だけ」に対応する説明で、判断対象「ADL、IADL、QOLだけ」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。成人生活機能尺度の組合せではない。判断対象は「ADL、IADL、QOLだけ」。発達プロフィールをみることで、児の強みと支援が必要な領域を具体化できる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q130

発達・活動・参加評価 > 発達検査 | 標準

児童向けWechsler知能検査 WISC の主な目的はどれか。この論点で、選択肢「児童の知的能力を多面的に評価する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 身体機能検査ではない。
- イ. WISCは児童の認知・知的能力を複数の指標から評価する。
- ウ. 運動発達検査だけではない。
- エ. ADL尺度ではない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「筋力だけを評価する」に対応する説明で、判断対象「児童の知的能力を多面的に評価する」の直接の根拠ではない。
イ：正しい。これは判断対象「児童の知的能力を多面的に評価する」が正答となる理由を直接説明している。
ウ：誤り。これは別の選択肢「粗大運動発達だけを評価する」に対応する説明で、判断対象「児童の知的能力を多面的に評価する」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「ADL介助量だけを評価する」に対応する説明で、判断対象「児童の知的能力を多面的に評価する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。WISCは児童の認知・知的能力を複数の指標から評価する。判断対象は「児童の知的能力を多面的に評価する」。WISCの結果は単一の総得点だけでなく、認知特性や下位指標のばらつきを生活・学習状況と関連づけて解釈する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q131

発達・活動・参加評価 > 発達検査 | 標準

Pediatric Evaluation of Disability Inventory PEDI で主に評価するのはどれか。この論点で、選択肢「関節可動域だけ」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. ROM検査ではない。
- イ. 視野検査ではない。
- ウ. 精神症状尺度ではない。
- エ. PEDIは小児の日常生活機能と介助・環境調整などを評価する。

OT04 Q132

発達・活動・参加評価 > 発達検査 | 標準

日本版ミラー幼児発達スクリーニング検査 JMAP の用途として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「就学前児の発達上の問題をスクリーニングする」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 運動負荷試験ではない。
- イ. 認知症尺度ではない。
- ウ. 炎症検査ではない。
- エ. JMAPは幼児期の発達上の問題を把握するためのスクリーニングに用いられる。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「関節可動域だけ」が誤答となる理由を直接説明している。
イ：誤り。これは別の選択肢「視野障害だけ」に対応する説明で、判断対象「関節可動域だけ」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「成人の躁症状」に対応する説明で、判断対象「関節可動域だけ」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「小児のセルフケア、移動、社会的機能など日常生活上の能力と援助状況」に対応する説明で、判断対象「関節可動域だけ」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。ROM検査ではない。判断対象は「関節可動域だけ」。小児評価では発達能力だけでなく、家庭や学校で実際にどの程度できるかを確認することが重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「心肺運動負荷を測る」に対応する説明で、判断対象「就学前児の発達上の問題をスクリーニングする」の直接の根拠ではない。
イ：誤り。これは別の選択肢「成人の認知症病期を評価する」に対応する説明で、判断対象「就学前児の発達上の問題をスクリーニングする」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「関節炎の炎症度を測る」に対応する説明で、判断対象「就学前児の発達上の問題をスクリーニングする」の直接の根拠ではない。
エ：正しい。これは判断対象「就学前児の発達上の問題をスクリーニングする」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。JMAPは幼児期の発達上の問題を把握するためのスクリーニングに用いられる。判断対象は「就学前児の発達上の問題をスクリーニングする」。スクリーニング結果は家庭・園での行動観察や詳細な発達評価と合わせて判断する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q133

発達・活動・参加評価 > 発達検査 | 応用

発達検査で一領域だけ低値だった児の評価として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「保護者からの情報は不要とする」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 単一検査結果だけで診断を確定しない。
- イ. 強みも支援計画に重要である。
- ウ. 発達検査は一時点の結果であり、行動観察や生活情報と統合して解釈する。
- エ. 保護者情報は日常場面の発達を知る重要な資料である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「低値だけで診断を確定する」に対応する説明で、判断対象「保護者からの情報は不要とする」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「高い領域は無視する」に対応する説明で、判断対象「保護者からの情報は不要とする」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「検査時の理解・疲労・感覚特性や家庭・園での行動を確認し、必要に応じて詳細評価する」に対応する説明で、判断対象「保護者からの情報は不要とする」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「保護者からの情報は不要とする」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。保護者情報は日常場面の発達を知る重要な資料である。判断対象は「保護者からの情報は不要とする」。発達評価では年齢相当性だけでなく、領域間のプロフィール、行動の質、環境との相互作用をみる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q134

発達・活動・参加評価 > ADL評価 (FIM・Barthel Index等) | 基礎

Functional Independence Measure FIM について正しいのはどれか。この論点で、選択肢「運動項目と認知項目を含む18項目で構成される」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. FIMは13の運動項目と5の認知項目、計18項目からなる。
- イ. 主に基本的ADLと認知的自立度を扱う。
- ウ. 筋力尺度ではない。
- エ. 疼痛尺度ではない。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「運動項目と認知項目を含む18項目で構成される」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「IADLだけを評価する」に対応する説明で、判断対象「運動項目と認知項目を含む18項目で構成される」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「筋力だけを5項目で評価する」に対応する説明で、判断対象「運動項目と認知項目を含む18項目で構成される」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「疼痛だけを10項目で評価する」に対応する説明で、判断対象「運動項目と認知項目を含む18項目で構成される」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。FIMは13の運動項目と5の認知項目、計18項目からなる。判断対象は「運動項目と認知項目を含む18項目で構成される」。FIMは『できる能力』だけでなく、実際に必要としている介助量を評価する尺度である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q135

発達・活動・参加評価 > ADL評価 (FIM・Barthel Index等) | 標準

FIMの各項目の得点について正しいのはどれか。この論点で、選択肢「高い得点ほど介助量が多い」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 認知5項目も評価対象である。
- イ. FIMは1～7の7段階で、得点が高いほど自立度が高い。
- ウ. 介助量が多いほど低得点になる。
- エ. 各項目は1点から7点で評価する。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「認知項目には得点をつけない」に対応する説明で、判断対象「高い得点ほど介助量が多い」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「高い得点ほど自立度が高い」に対応する説明で、判断対象「高い得点ほど介助量が多い」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「高い得点ほど介助量が多い」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「0点が完全自立を示す」に対応する説明で、判断対象「高い得点ほど介助量が多い」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。介助量が多いほど低得点になる。判断対象は「高い得点ほど介助量が多い」。FIMでは介助量、補助具、時間、安全性などを基準に自立度を段階づけする。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q136

発達・活動・参加評価 > ADL評価 (FIM・Barthel Index等) | 標準

FIMの認知項目に含まれるのはどれか。この論点で、選択肢「問題解決」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 階段は運動項目である。
- イ. 入浴は運動項目である。
- ウ. 問題解決はFIM認知項目に含まれる。
- エ. 排尿管理も運動項目に分類される。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「階段」に対応する説明で、判断対象「問題解決」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「入浴」に対応する説明で、判断対象「問題解決」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「問題解決」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「排尿管理」に対応する説明で、判断対象「問題解決」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。問題解決はFIM認知項目に含まれる。判断対象は「問題解決」。FIM認知項目には理解、表出、社会的交流、問題解決、記憶が含まれる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q137

発達・活動・参加評価 > ADL評価 (FIM・Barthel Index等) | 基礎

Barthel Indexで主に評価するのはどれか。この論点で、選択肢「幼児の発達」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 発達検査ではない。
- イ. 高次脳機能検査ではない。
- ウ. Barthel Indexは10項目の基本的ADLを中心に自立度を評価する。
- エ. 精神症状尺度ではない。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「幼児の発達」が誤答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「遂行機能だけ」に対応する説明で、判断対象「幼児の発達」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「食事・移乗・移動・排泄など基本的ADLの自立度」に対応する説明で、判断対象「幼児の発達」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「統合失調症症状」に対応する説明で、判断対象「幼児の発達」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。発達検査ではない。判断対象は「幼児の発達」。Barthel Indexは簡便に基本ADLを把握できる一方、認知機能やIADLは別途評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q138

発達・活動・参加評価 > ADL評価 (FIM・Barthel Index等) | 標準

FIMとBarthel Indexの比較として最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「FIMは認知項目も含み、介助量をより細かく段階づけする」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 認知項目を明示的に含むのはFIMである。
- イ. FIMはADL自立度を評価する。
- ウ. 生活機能尺度である。
- エ. FIMは運動と認知を含み、7段階で介助量を細かく評価する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「Barthel Indexだけが認知5項目を持つ」に対応する説明で、判断対象「FIMは認知項目も含み、介助量をより細かく段階づけする」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「FIMはADLを評価しない」に対応する説明で、判断対象「FIMは認知項目も含み、介助量をより細かく段階づけする」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「両者とも筋力検査である」に対応する説明で、判断対象「FIMは認知項目も含み、介助量をより細かく段階づけする」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「FIMは認知項目も含み、介助量をより細かく段階づけする」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。FIMは運動と認知を含み、7段階で介助量を細かく評価する。判断対象は「FIMは認知項目も含み、介助量をより細かく段階づけする」。尺度選択では簡便性、認知面、変化の捉えやすさ、利用目的を考慮する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q139

発達・活動・参加評価 > ADL評価 (FIM・Barthel Index等) | 応用

FIMの移動項目は高得点だが、自宅周辺は急坂で一人外出できない。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「自宅環境はADL評価と無関係とする」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 移動能力は多面的に評価する。
- イ. 尺度の測定範囲を超えて解釈しない。
- ウ. 病棟内ADL自立度と地域での実生活遂行は環境条件により異なる。
- エ. 生活環境は実際の活動・参加へ影響する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「歩行速度だけで全て判断する」に対応する説明で、判断対象「自宅環境はADL評価と無関係とする」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「高得点なので外出能力も完全自立とする」に対応する説明で、判断対象「自宅環境はADL評価と無関係とする」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「FIM得点だけで地域生活の自立を判断せず、環境とIADL・参加を追加評価する」に対応する説明で、判断対象「自宅環境はADL評価と無関係とする」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「自宅環境はADL評価と無関係とする」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。生活環境は実際の活動・参加へ影響する。判断対象は「自宅環境はADL評価と無関係とする」。ADL尺度は標準化された共通言語として有用だが、本人の生活環境に即した評価を追加する必要がある。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q140

発達・活動・参加評価 > IADL評価 | 基礎

Lawton IADL尺度で評価される活動として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「買い物や金銭管理、電話利用など」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. IADL尺度は地域で自立生活を送るための複雑な生活活動を扱う。
- イ. 基本動作である。
- ウ. 身体機能検査である。
- エ. 神経学的検査である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「買い物や金銭管理、電話利用など」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「寝返りだけ」に対応する説明で、判断対象「買い物や金銭管理、電話利用など」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「関節可動域だけ」に対応する説明で、判断対象「買い物や金銭管理、電話利用など」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「腱反射だけ」に対応する説明で、判断対象「買い物や金銭管理、電話利用など」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。IADL尺度は地域で自立生活を送るための複雑な生活活動を扱う。判断対象は「買い物や金銭管理、電話利用など」。IADLは基本ADLより認知・遂行機能や環境条件の影響を受けやすい。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q141

発達・活動・参加評価 > IADL評価 | 基礎

Frenchay Activities Index FAI で主に把握するのはどれか。この論点で、選択肢「疼痛の強さ」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 筋力計測ではない。
- イ. 疼痛尺度ではない。
- ウ. FAIは生活関連活動や社会活動をどの程度行っているかを評価する。
- エ. 認知症病期尺度ではない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「筋力の最大値」に対応する説明で、判断対象「疼痛の強さ」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「疼痛の強さ」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「家事・外出・社会活動などの実施頻度」に対応する説明で、判断対象「疼痛の強さ」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「認知症の病期」に対応する説明で、判断対象「疼痛の強さ」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。疼痛尺度ではない。判断対象は「疼痛の強さ」。IADL評価では『できるか』だけでなく、実際に生活でどの程度行っているかをみる尺度も重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q142

発達・活動・参加評価 > IADL評価 | 応用

基本ADLは自立しているが、請求書支払いを何度も忘れ、買い物で同じ物を重複購入する。最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「記憶・遂行機能と金銭管理・買い物の実際の遂行を評価する」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. IADLは基本ADLより先に低下することがある。
- イ. 筋力検査だけでは説明できない。
- ウ. 複雑なIADLの失敗は認知機能低下の初期兆候となることがある。
- エ. 記憶・計画・判断などを検討する必要がある。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「基本ADLが自立なので評価終了とする」に対応する説明で、判断対象「記憶・遂行機能と金銭管理・買い物の実際の遂行を評価する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「MMTだけを行う」に対応する説明で、判断対象「記憶・遂行機能と金銭管理・買い物の実際の遂行を評価する」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「記憶・遂行機能と金銭管理・買い物の実際の遂行を評価する」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「IADLの失敗は必ず筋力低下と考える」に対応する説明で、判断対象「記憶・遂行機能と金銭管理・買い物の実際の遂行を評価する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。複雑なIADLの失敗は認知機能低下の初期兆候となることがある。判断対象は「記憶・遂行機能と金銭管理・買い物の実際の遂行を評価する」。IADL評価は軽度認知障害や高次脳機能障害が地域生活へ与える影響を把握する上で重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q143

発達・活動・参加評価 > 興味・役割・作業遂行評価 | 基礎

Canadian Occupational Performance Measure COPM の特徴として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「病名だけで目標を決める」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 認知症尺度ではない。
- イ. 本人の優先作業を中心に目標設定へつなげる。
- ウ. 身体機能検査ではない。
- エ. COPMは本人にとって重要なセルフケア・生産性・余暇等の作業課題を面接で特定する。

OT04 Q144

発達・活動・参加評価 > 興味・役割・作業遂行評価 | 基礎

役割に関する評価で確認する内容として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「現在・過去・将来に本人が担っている、または担いたい家庭・仕事・地域等の役割」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 役割評価は本人の生活構造や社会参加、役割喪失・獲得を把握する。
- イ. バイタルサインではない。
- ウ. 身体機能だけでは役割を評価できない。
- エ. ROMは一要素にすぎない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「認知症病期だけを決める」に対応する説明で、判断対象「病名だけで目標を決める」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「病名だけで目標を決める」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「検者が筋力だけを採点する」に対応する説明で、判断対象「病名だけで目標を決める」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「本人が重要と考える作業課題を特定し、遂行度と満足度を自己評価する」に対応する説明で、判断対象「病名だけで目標を決める」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。本人の優先作業を中心に目標設定へつなげる。判断対象は「病名だけで目標を決める」。COPMはクライアント中心の目標設定と介入前後の変化把握に用いられる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「現在・過去・将来に本人が担っている、または担いたい家庭・仕事・地域等の役割」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「血圧だけ」に対応する説明で、判断対象「現在・過去・将来に本人が担っている、または担いたい家庭・仕事・地域等の役割」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「握力だけ」に対応する説明で、判断対象「現在・過去・将来に本人が担っている、または担いたい家庭・仕事・地域等の役割」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「関節角度だけ」に対応する説明で、判断対象「現在・過去・将来に本人が担っている、または担いたい家庭・仕事・地域等の役割」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。役割評価は本人の生活構造や社会参加、役割喪失・獲得を把握する。判断対象は「現在・過去・将来に本人が担っている、または担いたい家庭・仕事・地域等の役割」。病気や障害は能力だけでなく、親・労働者・友人などの役割へ影響するため評価が必要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q145

発達・活動・参加評価 > 興味・役割・作業遂行評価 | 標準

長期入院で活動意欲が低下している患者に興味チェックを行う主な目的はどれか。この論点で、選択肢「訓練時間を機械的に増やす」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 筋力検査ではない。
- イ. 医学的診断を変更するものではない。
- ウ. 興味や価値観は活動への動機づけと継続性に関係する。
- エ. 量だけを増やすための評価ではない。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「筋力を数値化する」に対応する説明で、判断対象「訓練時間を機械的に増やす」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「診断名を変更する」に対応する説明で、判断対象「訓練時間を機械的に増やす」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「本人が価値を感じる活動や過去の興味を把握し、活動選択へ生かす」に対応する説明で、判断対象「訓練時間を機械的に増やす」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「訓練時間を機械的に増やす」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。量だけを増やすための評価ではない。判断対象は「訓練時間を機械的に増やす」。興味評価は『何が好きか』だけでなく、病前の作業歴や現在の生活条件と関連づける。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q146

発達・活動・参加評価 > 興味・役割・作業遂行評価 | 基礎

自宅では料理できないが、訓練室では手順通りに調理できる患者がいる。最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「自宅の台所環境、道具配置、家族との役割分担などを追加評価する」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 作業遂行は環境と役割条件で変わるため実生活文脈を評価する。
- イ. 訓練環境と自宅環境の差を無視できない。
- ウ. 生活上の目標を本人と確認する。
- エ. 筋力以外の要因が示唆される。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「自宅の台所環境、道具配置、家族との役割分担などを追加評価する」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「訓練室で成功したので自宅も問題ないと判断する」に対応する説明で、判断対象「自宅の台所環境、道具配置、家族との役割分担などを追加評価する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「本人の希望は確認しない」に対応する説明で、判断対象「自宅の台所環境、道具配置、家族との役割分担などを追加評価する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「筋力だけを再測定する」に対応する説明で、判断対象「自宅の台所環境、道具配置、家族との役割分担などを追加評価する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。作業遂行は環境と役割条件で変わるため実生活文脈を評価する。判断対象は「自宅の台所環境、道具配置、家族との役割分担などを追加評価する」。作業遂行評価は標準課題だけでなく、本人が実際に生活する環境での遂行を重視する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q147

発達・活動・参加評価 > 就労・参加・QOL評価 | 標準

復職を目指す患者の職業前評価として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「握力だけで復職可否を決める」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 就労は身体・認知・心理・社会・環境要因が複合するため多面的評価が必要である。
- イ. 同じ診断でも職務要求と能力は異なる。
- ウ. 実際の職務要求を把握する必要がある。
- エ. 単一身体機能だけでは不十分である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「作業速度・正確性・持続性に加え、通勤、対人関係、疲労、職場環境も確認する」に対応する説明で、判断対象「握力だけで復職可否を決める」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「診断名だけで復職を判断する」に対応する説明で、判断対象「握力だけで復職可否を決める」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「職場の仕事内容を確認しない」に対応する説明で、判断対象「握力だけで復職可否を決める」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「握力だけで復職可否を決める」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。単一身体機能だけでは不十分である。判断対象は「握力だけで復職可否を決める」。職業評価では本人の能力と職務要求の適合を分析し、必要な合理的配慮や段階的復職を検討する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q148

発達・活動・参加評価 > 就労・参加・QOL評価 | 標準

WHOQOL-BREFの考え方として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「本人が文化や価値観、目標との関係で自分の生活の質をどう認識しているかを評価する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. WHOはQOLを、文化・価値体系の中で目標や期待等との関係から本人が認識する生活上の位置づけとして捉える。
- イ. 本人の主観的評価が中心である。
- ウ. ADL自立度だけでは異なる。
- エ. 身体機能だけの概念ではない。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「本人が文化や価値観、目標との関係で自分の生活の質をどう認識しているかを評価する」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「医療者が本人のQOLを一方的に決める」に対応する説明で、判断対象「本人が文化や価値観、目標との関係で自分の生活の質をどう認識しているかを評価する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「ADL介助量だけを測定する」に対応する説明で、判断対象「本人が文化や価値観、目標との関係で自分の生活の質をどう認識しているかを評価する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「筋力だけを評価する」に対応する説明で、判断対象「本人が文化や価値観、目標との関係で自分の生活の質をどう認識しているかを評価する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。WHOはQOLを、文化・価値体系の中で目標や期待等との関係から本人が認識する生活上の位置づけとして捉える。判断対象は「本人が文化や価値観、目標との関係で自分の生活の質をどう認識しているかを評価する」。QOLは機能障害の重さと必ずしも一致せず、本人の価値観や環境を含めて評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q149

発達・活動・参加評価 > 就労・参加・QOL評価 | 標準

健康関連QOL尺度を使用する理由として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「病理診断を確定するため」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 診断検査ではない。
- イ. 健康関連QOLは健康状態が本人の生活に及ぼす影響を多面的に捉える。
- ウ. ROM検査ではない。
- エ. 電気生理検査ではない。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「病理診断を確定するため」が誤答となる理由を直接説明している。
イ：誤り。これは別の選択肢「身体機能だけでは捉えにくい、健康が日常生活や心理・社会面へ与える影響を把握するため」に対応する説明で、判断対象「病理診断を確定するため」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「ROMを正確に測るため」に対応する説明で、判断対象「病理診断を確定するため」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「筋電図を記録するため」に対応する説明で、判断対象「病理診断を確定するため」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。診断検査ではない。判断対象は「病理診断を確定するため」。治療効果は身体機能の改善だけでなく、本人が生活をどう感じているかというアウトカムでも評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT04 Q150

発達・活動・参加評価 > 就労・参加・QOL評価 | 基礎

身体機能とADLは改善したが、職場の理解不足で復職できず、地域活動にも参加できていない。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「参加制約と職場・社会環境の阻害因子を評価する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. リハビリテーションの目標には参加も含まれる。
- イ. ICFでも環境因子は重要な構成要素である。
- ウ. 社会・制度・職場環境の影響を評価する。
- エ. 活動能力があっても環境上の障壁により社会参加が制限されることがある。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「身体機能が改善したのでリハビリ評価は終了する」に対応する説明で、判断対象「参加制約と職場・社会環境の阻害因子を評価する」の直接の根拠ではない。
イ：誤り。これは別の選択肢「環境因子は評価しない」に対応する説明で、判断対象「参加制約と職場・社会環境の阻害因子を評価する」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「参加できない原因を本人の努力不足だけとする」に対応する説明で、判断対象「参加制約と職場・社会環境の阻害因子を評価する」の直接の根拠ではない。
エ：正しい。これは判断対象「参加制約と職場・社会環境の阻害因子を評価する」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。活動能力があっても環境上の障壁により社会参加が制限されることがある。判断対象は「参加制約と職場・社会環境の阻害因子を評価する」。就労・地域参加評価では『できる能力』と『実際に参加できているか』を区別し、阻害・促進要因を具体化する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認